

口頭発表プログラム

■第1日目午後

3月29日(日)	第1会場	第2会場
13:30	101 座長 多賀正節 絶対寄生菌の人工培養：オオムギうどんこ病菌の人工培養 ○山岡直人 ¹ ・田中栄爾 ² ・八丈野孝 ¹ ・小林括平 ¹ ・西口正通 ¹ (¹ 愛媛大農・ ² 石川県立大)	201 座長 加藤新平 炭疽病菌エフェクターの機能特性 ○高原浩之 ¹ ・岩井瑛理子 ¹ ・伊永結貴 ¹ ・山口 将 ¹ ・湯本 亮 ¹ ・三浦隆紀 ¹ ・Richard O'Connell ² (¹ 石川県大生資環・ ² INRA-AgroParisTech)
13:42	102 キュウリうどんこ病菌の人工培地上での侵入器官形成誘導の試み ○田中栄爾 ¹ ・佐藤幸生 ² (¹ 石川県立大・ ² 富山県立大)	202 イネいもち病菌エフェクター遺伝子RBFはBIC形成を介して病原性に関与する 西村岳志 ¹ ・望月 進 ¹ ・南 尚子 ¹ ・藤澤由紀子 ¹ ・川原善浩 ¹ ・吉田悠里 ² ・岡田憲典 ² ・寺内良平 ³ ・南 栄一 ¹ ・○西澤洋子 ¹ (¹ 農業生物資源研究所・ ² 東大・生物生産工学研究センター・ ³ 岩手生物工学研究センター)
13:54	103 オオムギうどんこ病菌 Avr エフェクターの分泌時期の解析 ●香口智宏・片岡 創・久保田直道・小林括平・西口正通・山岡直人・八丈野孝 (愛媛大農)	203 ジャガイモ疫病菌由来エリシターによるシロイヌナズナの防御応答 ●津田康介 ¹ ・Monjil Shahjahan ² ・佐藤育夫 ¹ ・竹本大吾 ¹ ・川北一人 ¹ (¹ 名大院生農・ ² バングラディッシュ農業大学)
14:06	104 感受性が異なるキュウリ品種でのうどんこ病菌 <i>Podosphaera xanthii</i> の菌糸生育と吸器形成 (1) 感受性程度と分枝数の関係 ●板垣 芳 ¹ ・佐藤幸生 ² ・渋谷俊夫 ¹ ・東條元昭 ¹ (¹ 大阪府大院生環・ ² 富山県大)	204 抵抗性遺伝子 <i>RPP4</i> に認識されるべと病菌エフェクター ATR4 の宿主細胞内局在変化による認識回避機構 ○浅井秀太 ^{1,2} ・Oliver J Furzer ² ・Volkan Cevik ² ・Naveed Ishaque ² ・白須 賢 ¹ ・Jonathan DG Jones ² (¹ 理研 CSRS・ ² センズベリー研究所)
14:18	105 感受性が異なるキュウリ品種上のうどんこ病菌 <i>Podosphaera xanthii</i> の菌糸生育と吸器形成 (2) 菌糸分枝と吸器形成の関係 板垣 芳 ¹ ・○佐藤幸生 ² ・渋谷俊夫 ¹ ・東條元昭 ¹ (¹ 大阪府大院生環・ ² 富山県大)	205 疾病防御応答の活性化による生長制御機構の解明 ●森 毅 ¹ ・野元美佳 ¹ ・時澤陸朋 ² ・山下 隼 ¹ ・山本義治 ² ・塚越啓央 ^{1,3} ・多田安臣 ⁴ (¹ 名古屋大環・ ² 岐阜大応生・ ³ JST さきがけ・ ⁴ 名古屋大遺)
14:30	106 座長 矢野和孝 <i>Colletotrichum boninense</i> 種複合体の分子系統解析に基づくクワおよびモンステラ炭疽病の病原学名変更 ○佐藤豊三 ¹ ・森脇丈治 ² ・竹内 純 ³ (¹ 農業生物資源研究所 (生物研)・ ² 農研機構九州沖縄農業研究センター (九沖研)・ ³ 東京都農林総合研究センター (東京農総研))	206 座長 今崎伊織 tRNA-Ala の介在領域に座乗する ACR 毒素感受性遺伝子の転写物修飾に関わる AmBP30 複合体新規構成タンパク質の探索 ●島上卓也・大谷耕平・小川実可子・安田晋輔・西村 聡・三宅ちか子・多々野智・小野由紀子・望月 進・市村和也・五味剣二・秋光和也 (香川大農)

第3会場	第4会場	第5会場
301 座長 窪田昌春 キュウリ褐斑病耐病性品種 SR22 の耐病性の評価 ○畔柳泰典 ¹ ・井上幸次 ¹ ・高津あさ美 ² ・平田由起子 ³ (¹ 岡山農研・ ² 津山普セ・ ³ 岡山普セ)	401 座長 井村喜之 Citrus vein enation virus (CVEV) 日本株に特有なアミノ酸変異 ○長岡 (中蘭) 栄子・藤川貴史・岩波徹 (農研機構・果樹研)	501 座長 西條雄介 免疫応答における AtPUB28 の機能解析 ○石川和也・田中幹人・山川 結・宮腰 篤・山口貴子・山口公志・川崎努 (近畿大・農)
302 タマネギの収穫調製条件が細菌による貯蔵病害の発生に及ぼす影響 ○三室元気・守川俊幸 (富山農総セ農研)	402 カンキツモザイクウイルス (CiMV) の全塩基配列 ○井沼 崇 ¹ ・藤川貴史 ² ・長岡 (中蘭) 栄子 ² ・岩波 徹 ² (¹ 和歌山果樹試・ ² 農研機構果樹研)	502 シロイヌナズナ MEKK1 経路の欠損により誘導される防御反応表現型に関する解析 ●高木桃子 ¹ ・濱野康平 ¹ ・Alexander Graf ² ・David Greenshields ³ ・高木宏樹 ⁴ ・篠崎一雄 ³ ・寺内良平 ⁴ ・白須 賢 ³ ・市村和也 ¹ (¹ 香大農・ ² Sainsbury Lab., JIC, UK・ ³ 理研 CSRS・ ⁴ 岩手生工研)
303 レタス腐敗病の発病はナモグリバエ (<i>Chromatomyia horticola</i>) の食害により助長される ○小木曾秀紀 ¹ ・星野英正 ¹ ・栗原 潤 ² ・山岸菜穂 ¹ ・石山佳幸 ¹ (¹ 長野野花試・ ² 長野南信試)	403 Nucleotide Sequences of <i>Beet pseudo yellows virus</i> (BPYV) Isolated from Cucumber in Ehime Prefecture, Japan ●Akhter, M.S. ¹ , Bhor, S.A. ¹ , Nao, M. ² , Yaeno, T. ¹ , Yamaoka, N. ¹ , Nishiguchi, M. ¹ , and Kobayashi, K. ¹ (¹ UGAS-Ehime Univ., ² Ehime Plant Protect. Off.)	503 サリチル酸に依存した免疫応答を阻害する低分子化合物の同定 ○石濱伸明 ¹ ・能年義輝 ² ・崔 勝媛 ¹ ・Ivana Saska ¹ ・野村有子 ¹ ・中神弘史 ¹ ・村山和隆 ³ ・白水美香子 ⁴ ・近藤恭光 ¹ ・長田裕之 ¹ ・白須 賢 ¹ (理研 CSRS・ ² 岡山大院・環境生命・ ³ 東北大院医工・ ⁴ 理研 CLST)
304 イネ紋枯病の発生予察手法としての畦畔見歩きによる簡易発病株率調査法の検証 ○石井貴明・菊原賢次・國丸謙二・角重和浩 (福岡農林総試)	404 カラスウリから分離されたタバモウイルスの塩基配列：Kyuri green mottle mosaic virus の分離株群の2ウイルス種への可能性 田中 徹 ¹ ・吉田崇彦 ¹ ・月原周将 ¹ ・長田龍太郎 ² ・榎間義幸 ² ・小林括平 ¹ ・八丈野孝 ¹ ・山岡直人 ¹ ・○西口正通 ¹ (¹ 愛媛大農・ ² 宮崎総農試)	504 The MAPK signaling network as the molecular battlefield between <i>Arabidopsis</i> and the bacterial pathogen <i>Pseudomonas syringae</i> ○Mine, A., and Tsuda, K. (MPIPZ)
305 ブナシメジが生産する揮発性抗菌物質の同定 ○岡久美子・坂口七瀬・石原 亨・中桐 昭・尾谷 浩 (鳥取大農)	405 Distribution of <i>Cherry necrotic rusty mottle virus</i> (CNRMV) and <i>Cherry green ring mottle virus</i> (CGRMV) on sweet cherry in Gyeongbuk province in Korea ○Lee, S.Y. ¹ , Yea, M.C. ^{1,2} , Back, C.G. ¹ , Kang, I.K. ¹ , Choi, K.S. ¹ , Choi, C. ¹ , Lee, S.H. ¹ , and Jung, H.Y. ¹ (¹ Kyungpook National University, ² Animal and Plant Quarantine Agency)	505 座長 市村和也 MRPK1 は <i>Pto</i> DC3000 への抵抗性を正に制御する ○玄 康洙・松井英謙・野村有子・中神弘史 (理研 CSRS)
306 座長 児玉基一郎 環状リポペプチド surfactin のレタス根腐病抑制効果 藤田将平・○横田健治 (東農大生応化)	406 座長 小松 健 奄美大島におけるトケイソウ東アジアウイルス (EAPV) の集団遺伝学的解析 ●千秋祐也 ¹ ・中村正幸 ^{1,2} ・岩井 久 ^{1,2} (¹ 鹿児島大院連農・ ² 鹿児島大農)	506 MAMP 応答性リン酸化タンパク質 MARK1 は過敏細胞死を負に調節する ○松井英謙・野村有子・中神弘史 (理研 CSRS)

■第1日目午後

3月29日(日)	第1会場	第2会場
14:42	107 <i>Colletotrichum nymphaeae</i> (Passerini) Aaによるニセアカシア炭疽病(病原追加) ○山岸菜穂 ^{1,3} ・佐藤豊三 ² ・石山佳幸 ¹ ・小木曾秀紀 ¹ ・中馬いづみ ³ ・土佐幸雄 ³ (1長野野花試・2生物研・3神戸大農)	207 Thioesterase/cyclase をコードする <i>ACRTS3</i> は <i>Alternaria alternata</i> ラフレモン系統の ACR 毒素生合成に必須である ●二階堂佐紀・大谷耕平・和泉悠利子・増中 章・望月 進・市村和也・五味剣二・秋光和也(香川大農)
14:54	108 長野県のリンゴとブドウより分離された <i>Colletotrichum gloeosporioides</i> 種複合体菌株の同定と特性 ○横澤志織 ¹ ・佐藤豊三 ² ・近藤賢一 ¹ (1長野県果試・2生物研)	208 遺伝子制御遺伝子 <i>ACTTR</i> は宿主特異的 ACT 毒素生合成遺伝子 <i>ACTT3</i> , <i>ACTT6</i> の発現を制御する ●勝本真衣 ¹ ・増中 章 ¹ ・溝淵優希 ¹ ・二階堂佐紀 ¹ ・宮本容子 ¹ ・大谷耕平 ¹ ・望月 進 ¹ ・柘植尚志 ² ・山本幹博 ³ ・市村和也 ¹ ・五味剣二 ¹ ・秋光和也 ¹ (1香川大農・2名大院生農・3岡山大農)
15:06	109 マンゴー炭疽病を引き起こす <i>Colletotrichum acutatum</i> 種複合体菌株の再同定 ○澤岬哲也 ¹ ・新崎千江美 ¹ ・大城 篤 ¹ ・佐藤豊三 ² (1沖縄農研セ・2生物研)	209 <i>Alternaria alternata</i> におけるテヌアゾン酸生合成遺伝子の同定 ○赤木靖典 ¹ ・柘植尚志 ² ・児玉基一朗 ^{1,3} (1鳥取大農・2名大院生農・3鳥取連大)
15:18	110 <i>Phoma</i> sp.によるシャクヤク円星病(新称) ○福岡貴寿 ¹ ・佐藤豊三 ² ・永島 進 ¹ (1鳥根農技セ・2生物研)	210 炭疽病菌の比較ゲノム解析とその利用 Pamela Gan ¹ ・鳴坂真理 ² ・熊倉直祐 ¹ ・津島綾子 ¹ ・中田菜々子 ³ ・久保康之 ⁴ ・高野義孝 ⁵ ・鳴坂義弘 ² ・○白須 賢 ¹ (1理研 CSRS・2岡山生物研・3千葉農林総研・4京都府大・5京大院農)
15:30	111 座長 富岡啓介 rDNA-ITS および EF-1a による分子系統解析および色素産生に基づくピタヤ乾腐病菌の分類学的再検討 ●玉城優太 ¹ ・伴さやか ² ・佐藤豊三 ³ ・澤岬哲也 ⁴ ・西村和子 ⁵ ・田場 聡 ¹ (1琉大農・2NBRC・3生物研・4沖縄農研・5獨協大医)	211 座長 神頭武嗣 夏秋雨除けトマト栽培における農業用資材へのすすかび病菌分生子の付着と越冬状況 ○桐野菜美子・川口 章(岡山農研)

第3会場	第4会場	第5会場
307 乳酸菌 <i>Lactobacillus plantarum</i> BY 株 (SOK04BY 株) による植物生育促進効果 ○津田和久 ¹ ・梅村賢司 ² ・三富正明 ² ・辻 元人 ³ ・久保康之 ³ (1京都農技セ農林セ・2Meiji Seika ファルマ・3京都府大院生環)	407 西日本における <i>Narcissus late season yellows virus</i> の発生生態と遺伝学的多様性 ●野見山玲衣・大島一里(佐賀大農)	507 基部陸上植物ゼニゴケにおけるキチン認識機構 ○四井いづみ ¹ ・松井英讓 ¹ ・野村有子 ¹ ・西浜竜一 ² ・河内孝之 ² ・中神弘史 ¹ (1理研 CSRS・2京大・院生命科学)
308 ストックの糸状菌病に対する生物防除微生物 <i>Pythium oligandrum</i> の施用効果 ○平 里奈 ¹ ・三橋由香理 ¹ ・井上美咲 ¹ ・加藤俊樹 ¹ ・菅原 敬 ² ・小林 隆 ¹ ・竹中重仁 ³ ・長谷 修 ¹ (1山形大農・2山形西村山農技普・3近中四農研)	408 組換え時期の推定; オーストラリアおよびニュージーランド産カブモザイクウイルス集団を例として ●八坂亮祐・大庭希歩・大島一里(佐賀大農)	508 座長 古谷綾子 真核細胞チオレドキシシンによる青枯病菌グルタチオン分解酵素エフェクターの活性化 ○向原隆文・畑中唯史・小田賢司(岡山生物研)
309 トマト葉圏細菌 <i>Paenibacillus</i> sp. 42NP7 株と菌根菌 <i>Glomus mosseae</i> の併用処理による根腐萎凋病に対する発病抑制活性の増強効果 ○吉田重信 ¹ ・佐藤育男 ² ・岩本 豊 ³ ・相野公孝 ³ ・百町満朗 ⁴ ・齋藤雅典 ⁵ ・小坂橋基夫 ¹ ・對馬誠也 ¹ (1(独)農環研・2名大院生農・3兵庫農技セ・4岐阜大応生・5東北大院農)	409 Infectivity of codon usage-modified <i>Cucumber mosaic virus</i> in monocot and dicot host plants ○Mochizuki, T. ^{1,2} , and Roossinck, M.J. ² (1Osaka Pref. Univ., 2Penn State Univ.)	509 根粒菌の宿主特異性に関わるエフェクターの網羅的同定 ○丸山洋介 ¹ ・岡崎 伸 ² ・佐伯和彦 ³ ・林 誠 ⁴ ・下田宜司 ¹ (1生物研・2東京農工大・3奈良女子大・4理研 CSRS)
310 <i>Pseudomonas</i> sp. Os17 の植物保護能力にはリゾキシシン類縁体が寄与する ○竹内香純 ¹ ・野田なほみ ¹ ・片寄裕一 ¹ ・向井喜之 ¹ ・沼 寿隆 ¹ ・山田小須弥 ² ・染谷信孝 ³ (1生物研・2筑波大・3農研機構)	410 座長 志村華子 イネグラッシースタントウイルス p5 タンパク質の siRNA との結合能解析 ○根津 修 ¹ ・平栗章弘 ¹ ・一木(植原)珠樹 ² ・小松 健 ³ ・笹谷孝英 ⁴ (1東大院農・2生物研・3農工大院農・4九沖農研)	510 イネ白葉枯病菌において hybrid 型二成分制御系因子 XOO3712 は StoS の発現を制御する ○伊川有美・津下誠治(京府大院生環)
311 座長 吉田重信 鉄酸化細菌 <i>Leptothrix</i> sp. が生成するチューブ状酸化鉄による植物病原糸状菌の病原性制御 ○豊田和弘 ¹ ・川崎達弘 ¹ ・橋本英樹 ^{2,3} ・鈴木智子 ^{2,3} ・白石友紀 ^{1,4} ・久能 均 ^{2,3} ・高田 潤 ^{2,3} (1岡大院環生・2岡大院自然科学・3JST CREST・4現岡山生物研)	411 <i>plantago asiatica mosaic virus</i> の TGBp1 は植物内在性の小分子 RNA 「tasiRNA」の生成経路を抑制する ●二條貴通 ¹ ・岡野夕香里 ¹ ・煉谷裕太郎 ¹ ・橋本将典 ¹ ・遊佐 礼 ¹ ・桂馬拓也 ¹ ・大島研郎 ² ・小松 健 ³ ・山次康幸 ¹ ・難波成任 ¹ (1東大院農・2法政大植物医科・3農工大院農)	511 イネ白葉枯病菌の LysR 型転写制御因子は2つの <i>hrp</i> 制御タンパク質 HrpG と HrpX の発現を正に制御する ○津下誠治・Rashid Md. Mamunur・伊川有美(京府大生命環境)

■第1日目午後

3月29日(日)	第1会場	第2会場
15:42	112 エンドウうどんこ病菌 <i>Erysiphe pisi</i> の細胞学的核型解析 ●高谷俊宏 ¹ ・豊田和弘 ² ・多賀正節 ¹ (¹ 岡山院自然科学・ ² 岡大院環境生命)	212 Weather-driven models estimating airborne spore catches and disease increase of Marssonina blotch in apple orchards Jo, J.H. ¹ , Kang, W.S. ² , Hoon, K.K. ³ , Do, Y. ⁴ , and O Park, E.W. ¹ (¹ Department of Agricultural Biotechnology, Seoul National University, ² Epinet corporation, ³ Agricultural Environment Research Division, Gyeonggi-do Agricultural Research & Extension Services, ⁴ Apple Research Station, national Institute of Horticultural and Herbal Science)
15:54	113 <i>Colletotrichum orbiculare</i> species complex に属する炭疽病菌の細胞学的核型解析と宿主特異性の検討 ●小川真実 ¹ ・田中 薫 ¹ ・上中谷 瞳 ² ・山下 純 ³ ・Gan Pamela ⁴ ・白須 賢 ⁴ ・多賀正節 ² ・久保康之 ¹ (¹ 京府大院生環・ ² 岡大院自然・ ³ 岡大資源植物科学研・ ⁴ 理研)	213 トルコギキョウ褐色根腐病菌の分離頻度の季節変動 ○近藤 亨 (青森産技セ農林総研)
16:06	114 <i>Colletotrichum theobromicola</i> によるアテモヤ炭疽病(新称)の発生 ●森田琴子 ¹ ・菅原優司 ² ・蓑島綾華 ¹ ・星 秀男 ² ・吉澤祐太郎 ¹ ・鍵和田聡 ¹ ・石川成寿 ¹ ・堀江博道 ¹ (¹ 法政大植物医科・ ² 東京小笠原農セ)	214 ダイズ残渣中の黒根腐病菌への水稲作の影響 ○越智 直・赤松 創 (農研機構・中央農業総合研究センター)
16:18	115 <i>Colletotrichum tropicale</i> によるカカオ炭疽病(新称) ●柴田 葵 ¹ ・蓑島綾華 ¹ ・菅原優司 ² ・森田琴子 ¹ ・吉澤祐太郎 ¹ ・星 秀男 ² ・鍵和田聡 ¹ ・石川成寿 ¹ ・堀江博道 ¹ (¹ 法政大植物医科・ ² 東京小笠原農セ)	215 ナシ萎縮病菌 <i>Fomitiporia torreyae</i> における mycelial compatibility group (MCG) の分布状況 ○金子洋平・塩田あづさ・鈴木達哉・鈴木 健 (千葉農林総研)
16:30	116 座長 芦澤武人 イネいもち病菌とメヒシバいもち病菌間で認められた分生胞子サイズの差異 ●田原佳代子・野間口真太郎・草場基章 (佐賀大農)	216 座長 外側正之 定植時の葉かきと根傷みがイチゴ炭疽病の発病に及ぼす影響 ○辻 朋子 ¹ ・黒田克利 ¹ ・鈴木啓史 ¹ ・對馬誠也 ² ・吉田重信 ² (¹ 三重農研・ ² 農環研)

第3会場	第4会場	第5会場
312 Epichloae エンドファイトの遺伝的多様性獲得における疑似有性生殖の役割 ●磯部仁美 ¹ ・増中 章 ² ・菅原幸哉 ³ ・月星隆雄 ² ・田中愛子 ¹ ・竹本大吾 ¹ (1名大農・ ² 畜草研・ ³ 東北農研)	412 plantago asiatica mosaic virus の TGBp1 は tasiRNA 生成経路の 2 本鎖 RNA 合成を阻害する ○桂馬拓也 ¹ ・岡野夕香里 ¹ ・千秋博子 ¹ ・根津 修 ¹ ・遊佐 礼 ¹ ・二條貴通 ¹ ・小松 健 ² ・山次康幸 ¹ ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 農工大農)	512 <i>Xanthomonas campestris</i> pv. <i>campestris</i> の AvrXccB による免疫応答の抑制機構 ○田村勝徳 ¹ ・高師義幸 ² ・塩澤美紀 ² (¹ 岡大院自然・ ² 東大分生研)
313 ネギおよびタマネギの根圏から分離した <i>Flavobacterium</i> および <i>Chryseobacterium</i> 属菌のキュウリつる割病抑制活性 ○西岡友樹 ¹ ・鈴木陽子 ¹ ・須賀晴久 ² ・百町満朗 ¹ ・清水将文 ¹ (¹ 岐大院応生・ ² 岐大生命セ)	413 plantago asiatica mosaic virus の TGBp1 は RDR6 および SGS3 と結合してウイルス蓄積量を増加させる ●遊佐 礼 ¹ ・岡野夕香里 ¹ ・薦田(萩原)優香 ¹ ・桂馬拓也 ¹ ・二條貴通 ¹ ・小松健 ² ・山次康幸 ¹ ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 農工大院農)	513 座長 篠原弘亮 <i>Ralstonia solanacearum</i> RS1000 における細胞外多糖合成系制御機構 ●澤井 拓 ¹ ・田口富美子 ¹ ・向原隆文 ² ・一瀬勇規 ¹ (¹ 岡大院環生・ ² 岡山生物研)
314 トマト葉面由来の 2 種担子菌による 5 種病原菌への菌寄生について ●鮫島さおり・夏秋啓子 (東京農大国際)	414 plantago asiatica mosaic virus の TGBp1 はホモオリゴマーを形成し SGS3/RDR6 body を凝集させる ○岡野夕香里 ¹ ・遊佐 礼 ¹ ・薦田(萩原)優香 ¹ ・桂馬拓也 ¹ ・二條貴通 ¹ ・小松健 ² ・山次康幸 ¹ ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 農工大院農)	514 furanone 合成酵素をコードする <i>ralA</i> 遺伝子は、青枯病菌のバイオフィーム形成に関与する ●森 友花 ¹ ・大西秀幸 ² ・井上加奈子 ³ ・池田健一 ³ ・中屋敷均 ³ ・木場章範 ¹ ・大西浩平 ⁴ ・甲斐建次 ² ・曳地康史 ¹ (¹ 高知大農・ ² 大阪府大院生命環境・ ³ 神戸大院農・ ⁴ 高知大総研セ)
315 座長 有江 力 発光モニタリングによる病害応答性遺伝子プロモーター誘導パターンを利用した新規抵抗性誘導制御物質の探索 ●大澤友紀子・養田恵美子・梶 翔太・草間勝浩・小倉里江子・尾形信一・平塚和之 (横浜国大院環境情報)	415 植物の RNA 依存性 RNA ポリメラーゼが異常な RNA を見つける分子機構 Kyungmin Baeg ^{1,2} ・○岩川弘宙 ¹ ・泊幸秀 ^{1,2} (¹ 東大分生研・ ² 東大院新領域)	515 青枯病菌のバイオフィームの形成への菌体外多糖の関与 森 友花 ¹ ・○東本周樹 ¹ ・井上加奈子 ² ・池田健一 ² ・中屋敷均 ² ・木場章範 ¹ ・大西浩平 ³ ・曳地康史 ¹ (¹ 高知大農・ ² 神戸大院農・ ³ 高知大総研セ)
316 ハイスループットスクリーニング系を用いて同定した抵抗性誘導候補化合物のサリチル酸定量による特徴付け ●養田恵美子・大澤友紀子・梶 翔太・原裕芽子・草間勝浩・小倉里江子・尾形信一・平塚和之 (横浜国大院環境情報)	416 座長 山次康幸 Roles of Rice RNA Dependent RNA Polymerases (OsRDR1 and OsRDR6) to Viral, Fungal and Bacterial Infections ●Wagh, S.G. ¹ , Alam, M.M. ^{1,3} , Tanaka, T. ² , Miyao, A. ⁴ , Hirochika, H. ⁴ , Toriba, T. ^{5,6} , Hirano, H. ⁵ , Kobayashi, K. ² , Yaeno, T. ² , Yamaoka, N. ² , and Nishiguchi, M. ² (¹ United Grad. Sch. Agr. Sci. Ehime Univ., ² Sci. Fac. Agr., Ehime Univ., ³ Bangladesh Agr. Res. Inst., ⁴ Natl. Inst. Agrobiol., ⁵ Grad. Sch. Sci., Univ. Tokyo, ⁶ Natl. Inst. Basic Biol.)	516 座長 竹内香純 生育後期の薬剤散布によるコムギ黒節病の防除効果 ○酒井和彦・庄司俊彦 (埼玉農総研)

■第1日目午後

3月29日(日)	第1会場	第2会場
16:42	<p>117 冬枯れしたエノコログサにおけるいもち病菌の越冬 ●赤瀬公亮・草場基章（佐賀大農）</p>	<p>217 青森県におけるリング炭疽病に対する果実の時期別感受性変化 ○赤平知也・花岡朋絵・平山和幸（青森産技セリんご研）</p>
16:54	<p>118 接種前後の高温処理が葉いもちの発生に及ぼす影響 ○小林 隆¹・菅野洋光²・神田英司³・兼松誠司⁴・長谷 修¹（¹山形大農・²農研機構中央農研・³鹿児島大農・⁴農研機構東北農研）</p>	<p>218 薬剤散布がイチゴうどんこ病赤褐色病斑形成に及ぼす影響 ○佐藤秀明・棚橋 恵（新潟農総研園芸研）</p>
17:06	<p>119 マイクサテライト遺伝型解析で検出された <i>Rhizoctonia solani</i> AG-1 IA のイネ・ダイズ個体群の相互感染およびトウモロコシ個体群の分化 ●牧田結衣¹・竹原利明²・西川盾士³・稲垣公治¹・荒川征夫¹（¹名城大農・²近中四農研・³サカタのタネ）</p>	<p>219 トマト葉かび病菌の夏秋栽培における冬期生残性 ○渡辺秀樹¹・村元靖典¹・二村章雄²（¹岐阜農技セ・²岐阜中山間農研）</p>
17:18	<p>120 東日本大震災の津波被災後復旧水田における衛星データ（Rapid Eye）を利用したイネいもち病発生リスク広域評価手法の検討 ○櫻田史彦¹・佐藤直紀^{1,2}・鈴木智貴¹・宮野法近¹・大江高穂¹・加進丈二¹（¹宮城古川農試・²現宮城大崎普及セ）</p>	<p>220 イネの育苗管理工程におけるイネばか苗病菌の伝染リスクの評価 ○鈴木智貴¹・佐藤直紀^{1,2}・宮野法近¹・櫻田史彦¹（¹宮城古川農試・²現宮城大崎普及セ）</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>317 非 SAR 系防御応答遺伝子を発現誘導する低分子化合物の探索と特徴付け ●鈴木宏明¹・浜田紗稀²・山澤佳奈¹・盤指 豪¹・小倉里江子¹・尾形信一¹・平塚和之¹（¹横浜国立大学大学院環境情報学府・²横浜国立大学工学部）</p>	<p>417 イネ RNA サイレンシング関与遺伝子 <i>OsSGS3</i> の機能解析 ○田中 徹¹・S. G. Wagh²・M. M. Alam^{2,3}・H. Chen^{1,4}・宮尾安藝雄⁵・廣近洋彦⁵・小林括平¹・八丈野孝¹・山岡直人¹・西口正通¹（¹愛媛大農・²愛媛連大・³Present Address: Bangladesh Agr. Res. Inst.・⁴Present Address: Southern Crop Protec. Food Res. Cent.・⁵生物研）</p>	<p>517 多段接ぎ木トマト栽培による青枯病及び褐色根腐病の発病抑制効果 ○中保一浩¹・熊崎 晃²・二村章雄²・前田征之³・瓦 朋子⁴（¹農研機構・中央農研・²岐阜中山間農研・³新潟農総研・⁴ベルグアース（株））</p>
<p>318 ルシフェラーゼ融合タンパク質を用いた病害応答関連因子のモニタリング ●石田浩高¹・小倉里江子²・平塚和之²（¹横浜国大理工・²横浜国大環境情報）</p>	<p>418 RNA 干渉を利用したイネへのレオウイルスに対する抵抗性付与 ○笹谷孝英¹・雑賀啓明²・青木秀之³・長岡（中蘭）栄子⁴・一木（植原）珠樹²・土岐精一²・斎藤浩二³・矢頭 治³（¹農研機構・九沖農研・²生物研・³農研機構・中央農研・⁴農研機構・果樹研）</p>	<p>518 多段接ぎ木法によるナス青枯病及び半身萎凋病の発病抑制効果 ○前田征之¹・太田沙由理¹・中保一浩²・瓦 朋子³（¹新潟農総研・²農研機構中央農研・³ベルグアース（株））</p>
<p>319 トマト青枯病抑制効果をもつ3種の昆虫病原微生物資材を処理したトマト主根における網羅的遺伝子発現解析 ●大川佳織¹・安藤杉尋¹・清水将文²・百町満朗²（¹東北大院農・²岐大応生・³兵庫農研セ・⁴山形農総セ・⁵農環研）</p>	<p>419 ウイルス特異的スモール RNA を発現する形質転換ベンサミアーナタバコによるジャガイモやせいもウイルス感染の遅延 ●菅原康平・Charith Raj Adkar-Purushothama・葛西厚史・山本英樹・山崎佑人・赫 英紅・高田展之・後藤英樹・新堂さほり・原田竹雄・佐野輝男（弘前大学 農学生命科学部）</p>	<p>519 <i>Pseudomonas cichorii</i> によるレタス腐敗病の発病に対する低照度の影響 ○畔上耕児¹・窪田昌春¹・渡邊恭成²・中野明正¹（¹農研機構・野菜茶研・²昭和電工）</p>
<p>320 青枯病菌抵抗性トマト台木品種 LS-89 における過敏反応抵抗性の関与 ○高橋英樹¹・中保一浩²・瀬尾茂美³・安藤杉尋¹（¹東北大学・²中央農研・³生物研）</p>	<p>420 AGO1- ウイルス由来 siRNA の標的遺伝子予測を目指して 唐戸俊介¹・白谷公孝²・都筑正行¹・渡邊雄一郎¹・○竹田篤史²（¹東大・院総合文化・²立命館大・生命）</p>	<p>520 ワサビ軟腐病菌を宿主とするバクテリア オファージ F100 の全ゲノム解読 ●柏原美紗子¹・道羅英夫²・堀池徳祐¹・鈴木智大²・露無慎二¹・平田久笑¹（¹静大院農・²静大グリーン科技研）</p>

■第2日目午前

3月30日(月)	第1会場	第2会場
9:00	121 座長 佐藤 衛 Phyllosticta minimaによるメグスリノキの褐色円斑病(新称) ●中島諒弥 ¹ ・矢口行雄 ² ・本橋慶一 ² (¹ 東農大森林・ ² 東農大地域)	221 座長 田中千尋 三重県におけるQoI剤耐性イネいもち病菌の検出 ○鈴木啓史 ¹ ・黒田克利 ¹ ・辻 朋子 ¹ ・ 笹谷孝英 ² ・鈴木文彦 ³ (¹ 三重農研・ ² 農研機構・九沖農研・ ³ 農研機構・中央農研)
9:12	122 カリフラワーに新たに発生した黒すす病(新称) ○神頭武嗣・内橋嘉一・松浦克成(兵庫農技総セ)	222 薬剤耐性イネいもち病菌の動態を予測するシミュレーションモデルの作成 ○芦澤武人・林 敬子・安田伸子・早野由里子・鈴木文彦(中央農業総合研究センター)
9:24	123 Typhula variabilisおよびT. japonicaによるニンジンガマノホタケ雪腐病(新称)の発生 ○池田幸子 ¹ ・松本直幸 ² ・星野 保 ³ ・近藤則夫 ⁴ (¹ 道総研北見農試・ ² 北大農・ ³ 産総研・ ⁴ 北大院農)	223 点変異検出技術「1秒PCR」の開発—QoI剤耐性イネいもち病菌の遺伝子診断を例に— ○早野由里子・林 敬子・芦澤武人・鈴木文彦(農研機構中央農研)
9:36	124 融雪後のクリーピングベントグラスに発生が確認された雪腐症状について ○佐々木伸浩・堀田佳祐・鈴木良祐・早川敏広((株)理研グリーン)	224 SSR遺伝子型を用いた圃場いもち病菌の拡散の評価 ○善林 薫 ¹ ・鬼頭英樹 ¹ ・芦澤武人 ² ・鈴木文彦 ² (¹ 農研機構東北農研・ ² 農研機構中央農研)
9:48	125 セイヨウナシ胴枯病罹病樹でみられる腐敗果実から分離したDiaporthe属菌の系統解析 ○後藤新一 ¹ ・佐藤健治 ² ・兼松聡子 ³ (¹ 山形農総研セ園試・ ² 山形防除所・ ³ 果樹研リンゴ)	225 静岡県牧ノ原台地におけるQoI剤耐性チャ輪斑病菌の遺伝的集団構造 ○山田憲吾 ¹ ・園田亮一 ² ・石川浩一 ¹ (¹ 農研機構・野菜茶研・ ² 農環研)
10:00	126 座長 林 長生 ペレニアルライグラスいもち病菌のコムギに対する非病原力遺伝子PWT3のコムギいもち病菌における変異とRwt3保有コムギ品種への適応 ○井上喜博 ¹ ・トリン ヴィ ¹ ・吉田健太郎 ² ・寺内良平 ² ・中馬いづみ ¹ ・土佐幸雄 ¹ (¹ 神戸大院農・ ² 岩手生工研)	226 座長 鈴木啓史 テンサイ褐斑病菌(Cercospora beticola)におけるQoI剤耐性菌の発生 清水基滋 ¹ ・○山名利一 ¹ ・野津あゆみ ¹ ・池谷(齋藤)美奈子 ² ・栢森美如 ³ ・小澤 徹 ³ ・安岡眞二 ³ (¹ 道総研中央農試・ ² 道総研北見農試・ ³ 道総研十勝農試)

第3会場	第4会場	第5会場
321 座長 根岸寛光 新規殺菌剤トルプロカルブに関する研究(第3報)—イネいもち病に対する防除効果— ○萩原寛之・櫻井誠也・安楽城夏子・石本 洋・江崎竜太郎・明瀬智久(三井化学アグロ(株))	421 座長 前島健作 ウメの不完全花発症樹から分離されたPBNSPaVについて ○中畝良二 ¹ ・武田知明 ² ・長岡(中園)栄子 ¹ ・藤川貴史 ¹ (¹ (独)農研機構・果樹研究所・ ² 和歌山果樹試うめ研)	521 座長 中保一浩 病原性・非病原性Pectobacterium carotoborumのqPCRによる迅速な検出法 ○大坂正明 ¹ ・瀬尾直美 ¹ ・中村茂雄 ² (¹ 宮城農園研・ ² 宮城大食産)
322 新規殺菌剤トルプロカルブに関する研究(第4報)—イネいもち病菌の生育に対する影響— ○安楽城夏子・江崎竜太郎・明瀬智久・戸村直文(三井化学アグロ(株))	422 ウメ葉縁えそ病とPBNSPaVとの関係について ○武田知明 ¹ ・中畝良二 ² (¹ 和歌山果樹試うめ研・ ² 農研機構・果樹研)	522 果樹ファイトプラズマのPCR-LCR法による識別技術の開発 ○藤川貴史・岩波 徹(農研機構・果樹研究所)
323 新規殺菌剤トルプロカルブに関する研究(第5報)—イネいもち病菌に対する感受性検定法— ○櫻井誠也・安楽城夏子・明瀬智久(三井化学アグロ(株))	423 ウメ輪紋ウイルスに感染したサクラにおけるウイルス分布調査およびウメへの戻し接種 ●田守 秋 ¹ ・松原聖斗 ¹ ・蝶名林春香 ¹ ・遠藤三千雄 ¹ ・川合 昭 ¹ ・勝木俊雄 ² ・西尾 健 ¹ (¹ 法政大植物医科・ ² 森林総研)	523 TaqManリアルタイムPCRによるファイトプラズマとXylella fastidiosaの同時検出 ○伊藤隆男・須崎浩一(果樹研ブドウカキ)
324 殺菌・殺虫剤キノメチオナートの新規製剤に関する研究 ○北山 淳・藤松益男・峠 道明・福地俊樹(アグロカネショウ株式会社)	424 ウメ輪紋ウイルスのキク科雑草への感染 ●下野大輝 ¹ ・山井加奈美 ¹ ・加藤綾奈 ² ・小野 剛 ² ・遠藤三千雄 ¹ ・川合昭 ¹ ・西尾 健 ¹ (¹ 法政大植物医科・ ² 東京農総研)	524 Specific PCR-based assay for detection of three Xanthomonas species infecting bulbs and flowers ○Asaf, S. ¹ , Back, C.G. ¹ , Lee, S.Y. ¹ , Yea, M.C. ^{1,2} , Kim, S.M. ² , Lee, B.J. ² , Hyun, I.H. ² , and Jung, H.Y. ¹ (¹ Kyungpook National University, ² Animal and Plant Quarantine Agency)
325 座長 黒田克利 新規SDHI剤ベンゾピンジフルピルの炭疽病菌に対する阻害活性 ○石井英夫 ^{1,2} ・ゼンファン ² ・フーモンジュン ² ・シュナーベルギト ² (¹ 農環研・ ² 米国クレムソン大)	425 座長 関根健太郎 国内の異なる3地域で発生したトマトモザイクウイルスの抵抗性打破能 ○久保田健嗣 ¹ ・松浦昌平 ² ・村元靖典 ³ ・小河原孝司 ⁴ ・津田新哉 ¹ (¹ 中央農研・ ² 広総研農技セ・ ³ 岐阜農技セ・ ⁴ 茨城農総セ)	525 秋冬期におけるキウイフルーツ葉からのPseudomonas syringae pv. actinidiaeの検出 ○野口真弓・白石祥子・ロ木文孝(佐賀県果樹試験場)
326 カーバムナトリウム塩液剤の灌水チューブ処理による農業資材および残さに付着したキュウリ褐斑病菌低減効果の可能性 ○渡辺賢太・草野尚雄・鹿島哲郎(茨城農総セ園研)	426 トマトモザイクウイルス(ToMV)に対するトマト数品種の品種間差異 ○國丸謙二・石井貴明(福岡農林試)	526 座長 川口 章 受粉によるキウイフルーツかいよう病菌の感染の可能性 ○篠崎 毅 ¹ ・楠元智子 ¹ ・清水伸一 ¹ ・中川雅之 ² (¹ 愛媛果樹研セ・ ² 愛媛東予局)

■第2日目午前

3月30日(月)	第1会場	第2会場
10:12	127 非病原力遺伝子 <i>PWT3</i> の破壊によるライグラスいもち病菌のコムギへの病原性獲得 ○トリン ヴィ ¹ ・井上喜博 ¹ ・吉田健太郎 ² ・草場基章 ³ ・寺内良平 ² ・中馬いづみ ¹ ・土佐幸雄 ¹ (¹ 神戸大院農・ ² 岩手生工研・ ³ 佐賀大農)	227 静岡県内で分離されたカンキツそうか病菌の QoI 剤 (クレソキシムメチル) 感受性検定 ○加藤光弘 ¹ ・足立嘉彦 ² (¹ 静岡農林研果研セ・ ² 農研機構果樹研カンキツ)
10:24	128 Cloning of <i>AVR-Rmg8</i> corresponding to <i>Rmg8</i> , a wheat gene for resistance to <i>Triticum</i> isolates of <i>Pyricularia oryzae</i> ●Vu, A.L., Inoue, Y., Nguyen, A.T., Trinh, V., Chuma, I., and Tosa, Y. (Kobe Univ)	228 新潟県のセイヨウナシ栽培園における QoI 剤耐性黒斑病菌の増加と耐性菌の病原性 ○棚橋 恵 ¹ ・佐藤秀明 ¹ ・尾谷 浩 ² (¹ 新潟農総研園研セ・ ² 鳥取大学農学部)
10:36	129 Fine-mapping of <i>Rmo2</i> , a resistance locus in barley against the blast fungus ●Tagle, A.G. ¹ , Hyon, G.-S. ² , Yamaji, N. ³ , Hisano, H. ³ , Sato, K. ³ , Chuma, I. ¹ , and Tosa, Y. ¹ (¹ Kobe Univ., ² CSRS, RIKEN, ³ IPSR, Okayama Univ.)	229 青森県における QoI 剤耐性リンゴ斑点落葉病菌の発生動向 ○平山和幸 ¹ ・花岡朋絵 ¹ ・對馬由記子 ² ・山本晋玄 ³ ・赤平知也 ¹ (¹ 青森産技セりんご研・ ² 青森産技セ野菜研・ ³ 青森県農林水産部)
10:48	130 シコクビエいもち病菌が保有する普通系コムギに対する非病原力遺伝子数の遺伝学的推定 ●足助聡一郎・西見周子・Vy Trinh・井上喜博・中馬いづみ・土佐幸雄 (神戸大院農)	230 座長 池田健太郎 バイロシーケンス法を用いたキュウリ褐斑病, うどんこ病およびべと病の殺菌剤耐性変異の検出と圃場診断への応用 ●塚田淑仁・新福 剛・粕谷紫帆・森亜佑美・藤村 真 (東洋大院生命)
11:00	131 座長 渡辺京子 ダイズ黒根腐病に対するダイズの耐病性品種間差 ○黒田智久 ¹ ・松澤清二郎 ¹ ・藤田与一 ¹ ・石川浩司 ² ・川上 修 ¹ (¹ 新潟県農業総合研究所作物研究センター・ ² 新潟県経営普及課)	231 ブラジル産および日本産ダイズさび病菌に対する薬剤と抵抗性品種の効果 ○堅石秀明 ¹ ・渡辺絵里子 ¹ ・蛭田絵里奈 ¹ ・佐久間米子 ¹ ・山中直樹 ² (¹ (株)クレハ・ ² (独)国際農林水産業研究センター)
11:12	132 立枯れ症状を示すチャの根から分離された糸状菌の病原性と同定 ○外側正之 (静岡茶研セ)	232 香川県で分離されたレタス白絹病菌の培養特性と薬剤感受性 ○生咲 巖 ¹ ・吉田重信 ² (¹ 香川農試防除所・ ² 農環研)

第3会場	第4会場	第5会場
327 シプロジニル, テブコナゾールはチオファネートメチル剤耐性リンゴ褐斑病菌にも有効である ○佐藤 裕 (秋田県果樹試験場)	427 Preference of the western flower thrips for plants infected with thrips-non-transmissible Tomato spotted wilt virus ○Tomitaka, Y. ¹ , Abe, H. ² , Sakurai, T. ¹ , and Tsuda, S. ¹ (¹ NARO, ² RIKEN BRC)	527 キウイフルーツかいよう病菌の biovar3 を検出する新しいプライマーの作製 ○清水伸一 ¹ ・澤田宏之 ² ・篠崎 毅 ¹ ・楠元智子 ¹ ・野口真弓 ³ ・菊原賢次 ⁴ ・三好孝典 ⁵ (¹ 愛媛果樹研セ・ ² 生物研・ ³ 佐賀果樹研・ ⁴ 福岡農林試・ ⁵ 愛媛県庁)
328 福岡県のある地域における 2013 年と 2014 年のナシ赤星病発生に関する疫学研究 ○菊原賢次 ¹ ・橋本文武 ² (¹ 福岡県農林業総合試験場 (福岡農林試)・ ² 八女普及指導センター (八普指セ))	428 イネ縞葉枯ウイルス (RSV) に対する感受性が異なるイネ品種上で発育したヒメトビウンカ体内 RSV の定量解析 ○奥田 充・平江雅宏・柴 卓也 (農研機構中央農研)	528 トマト青枯病菌の穂木からの土壌汚染に対する高接ぎ木の防止効果 ○木村 愛 ¹ ・井上康宏 ² ・中保一浩 ² ・井村善之 ¹ ・藤田佳克 ¹ (¹ 日大生物資源・ ² 農研機構中央農研)
329 静岡県におけるトマト灰色かび病菌の薬剤感受性 ○田中弘太・原田朋菜 (静岡防除所)	429 クロスジコバネアブラムシによるバナナバンチートップウイルスの伝搬と検出 ●橋本拓也 ¹ ・鶴家綾香 ¹ ・M. S. Pinili ² ・夏秋啓子 ¹ (¹ 東京農大国際・ ² フィリピン大学ロスバニオス校)	529 トマト青枯病の発病度と病原細菌の土壌中への移行の関係 ○井上康宏・中保一浩 (農研機構・中央農研)
330 座長 清水将文 <i>Trichoderma asperelloides</i> SKT-1 株と酢酸の混用による土壌病害防除効果 ○前川大輔・明星亘俊・尾崎剛一・長谷川恵介 (タミアイ化学)	430 座長 竹田篤史 <i>Red clover necrotic mosaic virus</i> RNA1 のプラス鎖合成に必要な 5' 末端領域の塩基配列と構造 ○田島由理・Siriruk Sarawaneeyaruk・海道真典・三瀬和之・奥野哲郎 (京大院農)	530 座長 津下誠治 トマトかいよう病に対するトマトの穂木や台木品種の耐病性と植物体内の病原細菌の移行 ○清水佐知子・上藤満宏 (広島総研農技セ)
331 きのこから分離した <i>Biscogniauxia</i> 属菌によるイネいもち病菌の抑制について (4) ●Thi Quyet Nguyen・上田加奈・木原淳一・荒瀬 榮・井藤和人・林 昌平・吉清恵介・秋廣高志・上野 誠 (島根大生資)	431 <i>Red clover necrotic mosaic virus</i> RNA2 の 5' UTR はプラス鎖とマイナス鎖合成いずれにも関与する ○永井比加里・田島由理・兵頭 究・海道真典・三瀬和之・奥野哲郎 (京大院農)	531 カンキツかいよう病菌の病原性はリンゴシステムグルーピングウイルスとの重複感染により強まる ●岩井彩葉 ¹ ・岡野夕香里 ² ・平田久笑 ² (¹ 静大農・ ² 静大院農)
332 接木トマト茎内から分離された内生細菌による青枯病の発病抑制機構の解析 ●高原令央・古屋成人・石田絵理子・今村友哉・竹下 稔・土屋健一 (九大院農)	432 HMG-CoA Synthase は <i>Red clover necrotic mosaic virus</i> の複製に必要である ●高橋佳奈・兵頭 究・海道真典・三瀬和之・奥野哲郎 (京大院農)	532 ダイコン根部黒変症状を高率に再現する接種方法の検討 ○大谷洋子 ¹ ・衛藤夏葉 ² ・中村陽香 ³ ・大見麻綾 ³ ・瀧川雄一 ³ (¹ 和歌山県農業試験場・ ² 和歌山県果樹園芸課・ ³ 静岡大院創造)

■第2日目午前

3月30日(月)	第1会場	第2会場
11:24	133 日本産 <i>Hymenoscyphus fraxineus</i> のヤチダモに対する病原性 ●町田宏太 ¹ ・岡根 泉 ² ・阿部淳一 ^{ピーター} ² ・石賀康博 ² ・細矢 剛 ³ ・山岡裕一 ² (¹ 筑波大生物資源・ ² 筑波大生命環境・ ³ 科博)	233 トマト萎凋病に対するメチオニンの防除効果とそのメカニズム ●齋藤まどか・中島雅己・阿久津克己 (茨城大農)
11:36	134 イネいもち病菌の野生 <i>Setaria</i> 属植物に対する病原性 ●宮司貴浩・草場基章 (佐賀大農)	234 数種の宿主植物から分離した <i>Botrytis cinerea</i> 野生株の活性酸素種耐性に関する研究 ●國府田こごみ・中島雅己・阿久津克己 (茨城大農)
11:48		

第3会場	第4会場	第5会場
333 内生細菌による生物的防除法開発を目的とした接木トマト植物茎内細菌相の DGGE 解析 ●今村友哉 ¹ ・古屋成人 ¹ ・黒瀬大介 ² ・石田絵理子 ¹ ・高原令央 ¹ ・竹下 稔 ¹ ・土屋健一 ¹ (¹ 九大院農・ ² CABI Europe-UK)	433 活性酸素種産生機構の転用による植物 RNA ウイルスの増殖戦略 ○兵頭 究・海道真典・三瀬和之・奥野哲郎 (京大院農)	533 リンゴ果汁を用いた植物病原細菌の培養に適した培地 ●森山みど玲 ¹ ・キム オッキョン ¹ ・根岸寛光 ¹ ・對馬誠也 ² ・篠原弘亮 ¹ (¹ 東京農大農・ ² 農環研)
334 薬剤感受性の異なるイネばか苗病菌に対するタラロマイセスフラバス (SAY-Y-94-01) 製剤の防除効果 ○能城こずえ ¹ ・田村幸之 ² ・増田和義 ³ ・藤 晋一 ⁴ (¹ 出光興産・ ² 協友アグリ・ ³ ホクサン・ ⁴ 秋田県大生資)	434 タバコモザイクウイルス RNA-複製タンパク質複合体の解析 ○中条哲也・宮下脩平・石川雅之 (生物研)	
335 イネばか苗病菌の薬剤感受性、病原性および温度耐性の関係 ○藤 晋一・佐藤菜緒・戸田 武・古屋廣光 (秋田県大生資)	435 出芽酵母を用いたトマト黄化えそウイルス S RNA レプリコン系の開発 ○石橋和夫・石川雅之 (農業生物資源研究所)	

■第2日目午後

3月30日(月)	第1会場	第2会場
13:00	135 座長 藤永真史 イチゴに発生した広義の <i>Lasiodiplodia theobromae</i> による黒腐病（新称） ○植松清次 ¹ ・海老原克介 ² ・鐘ヶ江良彦 ³ ・中田菜々子 ⁴ ・田中千華 ⁵ ・佐藤豊三 ⁶ （ ¹ 千葉農林総研暖地・ ² 千葉農林総研暖地・ ³ 千葉農林総研暖地・ ⁴ 千葉農林総研・ ⁵ 千葉安房農事・ ⁶ 生物研）	235 座長 須賀晴久 炭疽病菌感染時の侵入菌糸囊膜局在因子の同定 ○島田貴士 ¹ ・高野義孝 ² ・植村知博 ¹ ・中野明彦 ^{1,3} ・上田貴志 ^{1,4} （ ¹ 東京大・院理・ ² 京都大・院農・ ³ 理研・光子量子工学・ ⁴ さきがけ）
13:12	136 茨城県で発生した <i>Peronospora belbahrii</i> によるメボウキ（バジル）べと病（新称） ○草野尚雄 ¹ ・岡田 亮 ¹ ・渡辺賢太 ¹ ・水野 浩 ² ・小河原孝司 ³ ・佐藤 衛 ⁴ ・鹿島哲郎 ¹ （ ¹ 茨城農総セ園研・ ² 茨城県西農林結城農改・ ³ 茨城農総セ・ ⁴ 花き研）	236 エンバクの細胞表面に存在するチオレドキシンは宿主特異的毒素ピクトリンの標的である ●兼市大輝 ¹ ・桑田啓子 ² ・斎藤隆一郎 ³ ・中神弘史 ⁴ ・中屋敷均 ³ ・土佐幸雄 ³ ・眞山滋志 ⁵ ・秋光和美 ⁶ ・多田安臣 ⁷ （ ¹ 名大院理・ ² 名古屋大 WPI-ITbM・ ³ 神戸大農・ ⁴ 理研 CSRS・ ⁵ 吉備国際大・ ⁶ 香川大農・ ⁷ 名古屋大遺）
13:24	137 千葉県および静岡県で発生した <i>Peronospora belbahrii</i> によるメボウキ（バジル）べと病（新称） ○佐藤 衛 ¹ ・植松清次 ² ・深見理子 ³ ・鈴木幹彦 ⁴ ・山内智史 ⁵ （ ¹ 農研機構花き研・ ² 千葉暖地園試・ ³ 千葉長生農業事務所・ ⁴ 静岡農技研・ ⁵ 農研機構中央農研）	237 <i>Alternaria alternata</i> における G protein-coupled receptor 遺伝子の同定 ○高尾和実 ¹ ・赤木靖典 ² ・柘植尚志 ³ ・児玉基一朗 ¹ （ ¹ 鳥取連大・ ² 鳥取大農・ ³ 名大院生農）
13:36	138 冬季に栽培されるヒマワリに発生した <i>Pythium sp.</i> による根腐萎縮病（新称） ○海老原克介 ¹ ・鐘ヶ江良彦 ¹ ・田中千華 ² ・加藤美紀 ² ・種谷光泰 ¹ ・植松清次 ¹ ・Rahman Mohammad Ziaur ³ ・景山幸二 ³ （ ¹ 千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所・ ² 千葉県安房農業事務所・ ³ 岐阜大学流域圏科学研究センター）	238 牧草共生糸状菌 <i>Epichloë festucae</i> の共生確立変異株における菌糸融合関連遺伝子の発現解析 ○榎野友香 ¹ ・亀岡慎一 ¹ ・岡村文音 ¹ ・尾崎よしの ¹ ・小林光智衣 ² ・高木宏樹 ² ・寺内良平 ² ・田中愛子 ¹ ・Barry Scott ³ ・竹本大吾 ¹ （ ¹ 名大院生農・ ² 岩手生工研・ ³ Massey Univ.）
13:48	139 マオランおよびクリスマスローズに発生した疫病（新称） ○鐘ヶ江良彦 ¹ ・白井 温 ² ・海老原克介 ¹ ・植松清次 ¹ （ ¹ 千葉農林総研・ ² 安房農事）	239 座長 高野義孝 イネいもち病菌の付着器形成誘導に関わるキチンデアセチラーゼ様タンパク質 Cbp1 の機能解析 ●黒木美沙 ¹ ・齋藤憲一郎 ² ・寺岡徹 ² ・成川 恵 ¹ ・鎌倉高志 ¹ （ ¹ 東理大理工・ ² 農工大）
14:00	140 座長 門馬法明 ネグリゾクトニア葉鞘腐敗病菌の遺伝的多様性 ○三澤知央（北海道立総合研究機構道南農業試験場）	240 ウリ類炭疽病菌における MOR シグナル伝達経路は孢子表面エステラーゼにより生成されたクチンモノマー認識を介した付着器形成に関与する ●小玉紗代 ¹ ・坂口 歩 ¹ ・石塚隼也 ^{1,4} ・宮下一糸 ¹ ・西内 巧 ² ・石井孝昭 ¹ ・三芳秀人 ³ ・久保康之 ¹ （ ¹ 京府大院生環・ ² 金沢大・学際センター・ ³ 京大院農・ ⁴ 現 京大院農）

第3会場	第4会場	第5会場
336 座長 堀田光生 キュウリうどんこ病に対する低濃度オゾンガス施用による防除効果 ○鈴木幹彦・大石直記（静岡農林研）	436 座長 笹谷孝英 土壌診断に基づくチューリップ土壌伝染性ウイルス病の防除（HeSoDiM） ○桃井千巳 ¹ ・森脇丈治 ² ・川部眞登 ¹ ・守川俊幸 ³ （ ¹ 富山農総セ園研・ ² 九州沖縄農研・ ³ 富山農総セ農研）	534 座長 平田久笑 OsMYC2 はイネ白葉枯病抵抗性を正に制御する ●宇治雄也 ¹ ・谷口しづく ² ・玉置大介 ¹ ・宍戸穂高 ¹ ・山田祥子 ¹ ・秋光和美 ^{1,2} ・五味剣二 ^{1,2} （ ¹ 香川大農・ ² 愛媛連大農）
337 次亜塩素酸水およびオゾン水を用いた頭上かん水のイチゴ炭疽病に対する発病抑制効果 ○平山喜彦 ¹ ・浅野峻介 ¹ ・西本登志 ¹ ・渡邊圭一郎 ² ・坂本泰宏 ² ・阿久澤博之 ² ・尾崎正昭 ² （ ¹ 奈良農研セ・ ² シャープ（株））	437 レタスピックベイン病における圃場の発病ポテンシャル評価法の開発 ○森 充隆 ¹ ・中西 充 ¹ ・桃井千巳 ² ・吉田重信 ³ ・對馬誠也 ³ （ ¹ 香川農試・ ² 富山園研・ ³ 農環研）	535 ジャスモン酸応答性揮発性物質のイネ病害抵抗性における役割 ●谷口しづく ¹ ・田中啓一郎 ² ・三好正花 ² ・細川（篠永）有美 ² ・宇治雄也 ² ・秋光和美 ^{1,2} ・五味剣二 ^{1,2} （ ¹ 愛媛連大農・ ² 香川大農）
338 オゾン水によるブドウ果粒の殺菌 後藤雅之・○黒田克利・近藤宏哉・渡邊雅史（三重県農業研究所）	438 植物ウイルスを媒介する主要3種類の <i>Olpidium</i> 属菌の検出と系統解析 ○川部眞登 ^{1,2} ・森脇丈治 ^{2,3} ・前川和正 ⁴ ・西口真嗣 ⁴ ・鐘ヶ江良彦 ⁵ ・津田新哉 ¹ （ ¹ 中央農研・ ² 富山農総セ園研・ ³ 九冲農研・ ⁴ 兵庫農総セ・ ⁵ 千葉農林総研セ）	536 植物免疫活性化時における糖吸収制御 ○山田晃嗣 ¹ ・西條雄介 ^{2,3} ・高野義孝 ¹ （ ¹ 京大院農・ ² 奈良先バイオ・ ³ JST さきがけ）
339 植物病害防除における高分子キチン・キトサンのナノファイバー化の有効性について ○江草真由美 ¹ ・松井英譲 ² ・中神弘史 ² ・伊福伸介 ¹ ・上中弘典 ³ （ ¹ 鳥取大院工・ ² 理研 CSRS・ ³ 鳥取大農）	439 リンゴ小球形潜在ウイルス（ALSV）感染リンゴ個体からの ALSV を含まない組織の獲得 ○山岸紀子・高橋真佑子・吉川信幸（岩手大農）	537 無菌培養植物を用いたジャガイモ青枯病菌 <i>phylo-type I</i> および <i>IV</i> に対する抵抗性育種素材の探索 ○波部一平・岳田 司（長崎県農林技術開発センター）
340 ダイコン鋤き込みによる生物的土壌燻蒸処理後のハウレンソウ萎凋病の発病とその要因 ○吉岡陸人 ¹ ・竹原利明 ² ・鍛冶原寛 ¹ （ ¹ 山口農林総セ・ ² 農研機構近中四農研）	440 ダリア植物体内におけるトマト黄化えそウイルスの感染分布 ○浅野峻介 ¹ ・松下陽介 ² ・平山喜彦 ¹ ・仲 照史 ¹ （ ¹ 奈良県農業研究開発センター・ ² 農研機構 花き研究所）	538 サクラ類のこぶ病抵抗性に関する光条件について ○石原 誠 ¹ ・秋庭満輝 ² ・佐橋憲生 ² ・池田武文 ³ （ ¹ 森林総研北海道・ ² 森林総研・ ³ 京都府立大）
341 座長 小坂橋基夫 エタノール発酵残さを用いた生物的土壌消毒法の検討 ○堀田光生・北本宏子（（独）農業環境技術研究所）	441 座長 富高保弘 TYLCV 非虫媒株を障壁作物として栽培した施設トマト圃場における TYLCV 虫媒株および非虫媒株の保毒虫率 ○森山美穂・古家 忠（熊本県農業研究センター生産環境研究所）	539 座長 五味剣二 <i>Ralstonia solanacearum</i> による秋ウコン、春ウコンおよび紫ウコン青枯病（新称）の発生 ○安次富厚 ¹ ・井上康宏 ² ・堀田光生 ³ ・中保一浩 ² （ ¹ 沖縄防技セ・ ² 農研機構中央農研・ ³ 農環研）

■第2日目午後

3月30日(月)	第1会場	第2会場
14:12	141 鉄コーティング湛水直播の苗腐敗を起 こしたイネから分離される <i>Pythium</i> 属 菌の種同定 ○畑 和秀 ¹ ・松浦昌平 ² ・東條元昭 ¹ (¹ 大府大生環・ ² 広総研農技セ)	241 表面の水酸基によるいもち病菌の付着 器形成阻害 ○西村麻里江 ¹ ・中野美紀 ² ・三宅晃司 ² (¹ 生物研・ ² 産総研)
14:24	142 <i>Pythium spinosum</i> によるショウガ貯蔵 根茎腐敗病 ○山崎睦子 ¹ ・景山幸二 ² ・森田泰彰 ¹ (¹ 高知県農業技術センター・ ² 岐阜大学 流域圏科学研究センター)	242 コムギいもち病菌における第三のアル ゴノートタンパク質 Ago3 の機能解析 ●入谷彰英・横矢佳奈・中屋敷均(神 戸大院・農)
14:36	143 イチゴビシウム根腐病の発病と温度と の関係 ○楠 幹生 ¹ ・景山幸二 ² (¹ 香川農試病 害虫防除所・ ² 岐大流域研セ)	243 Global reprogramming of DNA methylation during fungal development in the rice blast fungus Jeon, J. ¹ , Choi, J. ¹ , Lee, G.-W. ¹ , Park, S.-Y. ¹ , Huh, A. ¹ , Dean, R.A. ² , and Lee, Y.-H. ¹ (¹ Department of Agricultural Biotechnology and Fungal Bioinformatics Laboratory, Seoul National University, ² Center for Integrated Fungal Research, North Carolina State University)
14:48	144 Re-identification of <i>Phytophthora</i> species causing root rot of eggplant ○Rahman, M.Z. ¹ , Uematsu, S. ² , Date, H. ³ , Suga, H. ⁴ , and Kageyama, K. ¹ (¹ River Basin Res. Center, Gifu Univ., ² Chiba Pref. Agri. Forest. Res. Center, ³ Japan Associ. Advance. Phyto-Regul., ⁴ Life Sci. Res. Center, Gifu Univ.)	244 座長 草場基章 イネ品種「ひとめぼれ」と「蒙古稲」 の組換え自殖系統 (RIL) を用いたイ ネいもち病菌感受性決定因子の遺伝学 的解析 ○藤崎恒喜 ¹ ・阿部善子 ¹ ・高木宏樹 ¹ ・ 阿部 陽 ¹ ・中馬いづみ ² ・寺内良平 ¹ (¹ 岩手生工研・ ² 神戸大)
15:00	145 植物工場に発生したレタスおよびセロ リの腐敗性病害(病原菌追加および新 称) ○宇佐見俊行 ¹ ・片桐春奈 ² (¹ 千葉大 学大学院園芸学研究所・ ² 千葉大学園 芸学部)	245 エンバクいもち病菌のコムギ品種 Hope に対する非親和性に関する遺 伝子対の同定 ●小松香織・森 亮太・井上喜博・ Vy Trinh・中馬いづみ・土佐幸雄(神 戸大院農)

第3会場	第4会場	第5会場
342 専用増殖施設で育成された健全親株利 用およびポット更新によるイチゴ萎黄 病の回避 ○稲田 稔(佐賀農業セ)	442 トマト黄化葉巻病抵抗性品種における 土着天敵タバコカシカメとバンカー 植物を利用したタバココナジラミ及び トマト黄化葉巻病の防除体系 ○影山智津子・中野亮平・土井 誠・ 鈴木幹彦(静岡農林技研)	540 わが国で分離された <i>Pseudomonas</i> <i>syringae</i> pv. <i>actinidiae</i> biovar 3 の特徴 ○澤田宏之 ¹ ・清水伸一 ² ・三好孝典 ³ ・ 篠崎 毅 ² ・楠元智子 ² ・野口真弓 ⁴ ・成 富毅誌 ⁵ ・菊原賢次 ⁶ ・間佐古将則 ⁷ ・藤 川貴史 ⁸ ・中畝良二 ⁸ (¹ 生物研・ ² 愛媛 果樹研セ・ ³ 愛媛県庁・ ⁴ 佐賀果樹試・ ⁵ 佐賀農技防・ ⁶ 福岡農林試・ ⁷ 和歌山 果試かきもも研・ ⁸ 農研機構・果樹研)
343 転炉スラグを用いた土壌 pH 矯正に品 種の耐病性およびペーパーポット育 苗を併用したレタス根腐病の被害軽 減効果 ○岩間俊太 ¹ ・谷川法聖 ¹ ・倉内賢一 ¹ ・ 門田育生 ² (¹ 青森産技セ農林総研・ ² 農研機構東北農研)	443 非虫媒性トマト黄化葉巻ウイルス 17G 株の予防接種はイスラエル-マイルド 系統の二次伝染を減少させる ○井上登志郎 ¹ ・新子泰規 ¹ ・佐山春 樹 ¹ ・斉藤 渉 ¹ ・田中和豊 ² ・三浦 悠 ² ・村井 保 ² ・西川尚志 ² ・夏秋知英 ² (¹ キッコーマン・研究開発・ ² 宇都宮 大農)	541 本邦における <i>Pseudomonas savastanoi</i> pv. <i>savastanoi</i> によるオリーブがんしゅ 病の発生 達 瑞枝 ¹ ・太田光輝 ² ・田中弘太 ³ ・ ○瀧川雄一 ¹ (¹ 静岡大院創造・ ² 日星 石油・ ³ 静岡防除所)
344 ガスバリアー性フィルムを用いたサツ マイモ立枯病に対するクロロピクリン 処理間隔の限界と防除効果 ○米本謙悟 ¹ ・田中昭人 ¹ ・三宅 圭 ¹ ・ 村井恒治 ¹ ・小原裕三 ² (¹ 徳島農総技支 セ・ ² 農環研)	444 深紫外線 LED 光照射によるトマトモ ザイク病 (ToMV) の抑制 ○松浦昌平・石倉 聡(広総研農技セ)	542 ダイコン根部の黒変症状から分離され た <i>Xanthomonas campestris</i> pv. <i>raphanini</i> について ●大見麻綾 ¹ ・渡辺秀樹 ² ・大谷洋子 ³ ・ 井上康宏 ⁴ ・瀧川雄一 ⁵ (¹ 静岡大院農・ ² 岐阜農技セ・ ³ 和歌山農試・ ⁴ 農研機 構中央農研・ ⁵ 静岡大院創造)
345 水蒸気の凝縮熱を利用した水稻種子消 毒装置の開発 ○野田崇啓 ¹ ・日高靖之 ¹ ・伊與田浩志 ² ・ 越智昭彦 ³ ・酒井和彦 ⁴ ・薮 哲男 ⁵ ・ 上垣陽平 ⁵ ・三室元気 ⁶ ・守川俊幸 ⁶ ・ 磯田 淳 ⁷ ・星野 滋 ⁸ ・有江 力 ⁹ ・ 中村 透 ¹⁰ ・軽部勇希 ¹⁰ (¹ 農研機構 生研セ・ ² 大市大院工・ ³ 山形農総研セ・ ⁴ 埼玉農総研セ・ ⁵ 石川農総セ・ ⁶ 富山 県農総技セ・ ⁷ 島根農技セ・ ⁸ 広島総研 農技セ・ ⁹ 農工大院農・ ¹⁰ 山本製作所)	445 青森県のニンニク栽培における銅剤散 布はリーキ黄色条斑ウイルス (LYSV) のアブラムシ伝染を抑制する ○山下一夫・加賀友紀子(青森産技セ 野菜研)	543 Identification of <i>Dickeya</i> Strains Isolated from Rice in Yamanashi and from Mango in Kagoshima Prefectures ●Febryani, N. ¹ , Funakubo, T. ² , Kanaya, M. ² , Ogawa, Y. ³ , Fujikawa, T. ⁴ , Suharjo, R. ⁵ , and Takikawa, Y. ⁶ (¹ Grad. Sch. Agric. Shizuoka Univ., ² Yamanashi Pref. Agritech. Cent., ³ Kagoshima Pref. Inst. Agric. Develop. Oshima Branch, ⁴ NARO Inst. Fruit Tree Sci., ⁵ Lampung Univ., ⁶ Grad. Sch. Sci. Tech. Shizuoka Univ.)
346 座長 荒川征夫 水稻種子伝染性病害に対する高温加湿 空気の防除効果(第3報) ○宮川典子 ¹ ・前田勝行 ¹ ・坂田智子 ² ・ 松尾多恵子 ² ・森 亮太 ¹ ・富士 真 ¹ (¹ JA 全農営技セ・ ² インコテックジャ パン)	446 座長 鍵和田聡 ダイズ野生種、ソルマメにおけるウイ ルス病の発生調査(2) 2種 Potyvirus の発生確認 ○大貫正俊 ¹ ・酒井淳一 ¹ ・佐藤豊三 ² ・ 芝池博幸 ³ ・水谷信夫 ¹ ・榊原充隆 ⁴ ・菊 地淳志 ⁵ (¹ 農研機構・九沖農研・ ² 生 物研・ ³ 農環研・ ⁴ 農研機構・東北農研・ ⁵ 農研機構・近中四農研)	544 座長 大島研郎 <i>Pseudomonas syringae</i> IV 群菌の系統 と効果的な病原性試験法 ●達 瑞枝・瀧川雄一(静岡大院創造)

■第2日目午後

3月30日(月)	第1会場	第2会場
15:12	146 座長 鎌倉高志 MAP キナーゼ Pmk1 および Mps1 は H3K4 ヒストンメチル基転移酵素 MoSET1 の上流で機能する グエンハン・ファム キウ・池田健一・ ○中屋敷均 (神戸大学大学院農学研究科)	246 AtHCS1 の顕著な ICS 活性およびベンサミアナタバコにおける高蓄積に必要な領域の同定 ●鈴木那奈 ¹ ・松井英謙 ² ・中神弘史 ² ・高橋 章 ³ ・光原一朗 ³ ・新井亮一 ⁴ ・加藤新平 ¹ (信州大農・ ² 理研 CSRS・ ³ 生物研・ ⁴ 信州大繊維)
15:24	147 糸状菌型人工ヌクレアーゼ Platinum Fungal TALENs を用いたイネいもち病菌における新規遺伝子ノックインおよび塩基置換導入法 ●三好健之介 ¹ ・荒添貴之 ¹ ・大和 澄 ¹ ・小川哲央 ¹ ・佐久間哲史 ² ・山本 卓 ² ・大里修一 ¹ ・有江 力 ³ ・桑田 茂 ¹ (明治大農・ ² 広島大院理・ ³ 農工大院農)	247 WIPK/SIPK 抑制体における傷害誘導性サリチル酸蓄積を利用したサリチル酸合成関連遺伝子の探索 ○加藤新平 ¹ ・光原一朗 ² ・瀬尾茂美 ² (信州大農・ ² 生物研)
15:36	148 DNA 二本鎖切断とその修復過程において生じるイネいもち病菌の病原性変異 ○荒添貴之 ¹ ・田中寿樹 ¹ ・小川哲央 ¹ ・三好健之介 ¹ ・大和 澄 ¹ ・佐久間哲史 ² ・山本 卓 ² ・有江 力 ³ ・中馬いづみ ⁴ ・大里修一 ¹ ・土佐幸雄 ⁴ ・桑田 茂 ¹ (明治大院農・ ² 広島大院理・ ³ 農工大院農・ ⁴ 神戸大院農)	248 タバコのサリチル酸合成関連転写因子ホモログ NtCBP60g および NtSARD1 の機能解析 ●高木公美子 ¹ ・光原一朗 ² ・瀬尾茂美 ² ・加藤新平 ¹ (信州大農・ ² 生物研)
15:48	149 イネいもち病菌 Srs2 DNA ヘリカーゼの機能解析 ●小川哲央 ¹ ・荒添貴之 ¹ ・佐久間哲史 ² ・山本 卓 ² ・桑田 茂 ¹ ・草野好司 ¹ ・大里修一 ¹ (明治大院農・ ² 広島大院理)	249 座長 高原浩之 ベンサミアナタバコのファイトアレキシン合成酵素遺伝子 <i>NbEAS</i> のプロモーター領域の解析 伏見真由香 ¹ ・小鹿 一 ¹ ・加藤新平 ² ・川北一人 ¹ ・○竹本大吾 ¹ (名大農・ ² 信州大農)
16:00	150 イネいもち病菌 Ina168m95-5 株における AVR-Pik の欠失機構の解析 船引麻衣 ¹ ・中馬いづみ ² ・浅野行蔵 ¹ ・ ○曾根輝雄 ¹ (北大院農・ ² 神戸大農)	250 ベンサミアナタバコの SAR8.2m はジャガイモ疫病菌感染に应答した抵抗性誘導に必須である ○近藤洋平・宮崎江里・小嶋博樹・水谷安希・柴田裕介・川北一人・竹本大吾 (名大院生農)

第3会場	第4会場	第5会場
347 水稻種子伝染性病害に対する高温加湿空気の防除効果 (第4報) ○前田勝行 ¹ ・宮川典子 ¹ ・坂田智子 ² ・松尾多恵子 ² ・森 亮太 ¹ ・富士 真 ¹ (JA 全農営技セ・ ² インコテックジャパン)	447 ダイズ縮葉モザイクウイルス RNA1 ゲノムの全塩基配列の解析 ○大木健広 ¹ ・黒田智久 ² ・佐山 充 ¹ ・真岡哲夫 ¹ (北海道農研・ ² 新潟農総研作物研)	545 大気由来の <i>Pseudomonas syringae</i> の系統樹解析 ○富濱 毅 ¹ ・瀧川雄一 ² (鹿児島県農総セ・ ² 静岡大創造科学)
348 ヒートポンプ空調機を用いた湿度制御によるナスすず斑病の防除 ○下元祥史 ¹ ・山本敬司 ² (高知農技セ・ ² 四国総研)	448 北海道におけるニンジン黄化病の発生について ○吉田直人・丹羽昌信・玉田哲男 (ホクレン農総研)	546 <i>Pantoea ananatis</i> Group I の病原性関連遺伝子領域 PASVIL の解析 ○久保田雄貴 ¹ ・木戸一孝 ^{1,2} ・瀧川雄一 ³ (静岡大院農・ ² (株)サカタのタネ・ ³ 静岡大院創造)
349 ミニトマト促成栽培における結露センサー付き複合環境制御装置を利用した疫病の発病抑制 國友映理子 ¹ ・牛尾進吾 ¹ ・○鈴木菊雄 ² ・佐藤侑美佳 ¹ (千葉農総セ・ ² 鈴木電子株式会社)	449 栃木県における carrot motley dwarf disease の発生 ○山城 都 ¹ ・青木久美 ¹ ・伊村 務 ¹ ・王 蔚芹 ² ・西川尚志 ² ・夏秋知英 ² (栃木農試・ ² 宇都宮大農)	547 雑草から分離された <i>Pantoea ananatis</i> およびタマネギから分離された <i>P. agglomerans</i> における PASVIL の検出 瀧川雄一 ¹ ・○富田俊介 ² ・久保田雄貴 ³ ・畔上耕児 ⁴ ・木戸一孝 ^{3,5} (静岡大院創造・ ² 静岡大農・ ³ 静岡大院農・ ⁴ 農研機構・野菜茶研・ ⁵ (株)サカタのタネ)
350 エンバク野生種の作付けによるキャベツパーティシリウム萎凋病の防除 ○酒井 宏 ¹ ・漆原寿彦 ² ・加部 武 ¹ ・日戸正敏 ¹ ・白石俊昌 ^{1,3} ・池田健太郎 ¹ (群馬農技セ・ ² 群馬県庁・ ³ 現在:東京大学)	450 栃木県で発生した Carrot motley dwarf disease 症状を示すニンジンから検出された <i>Carrot mottle mimic virus</i> の全塩基配列決定 ○王 蔚芹 ¹ ・山城 都 ² ・青木久美 ² ・伊村 務 ² ・藤永真史 ³ ・西川尚志 ¹ ・夏秋知英 ¹ (宇都宮大農・ ² 栃木農試・ ³ 長野農試)	548 フィリピン共和国におけるカンキツグリーニング病原細菌ゲノムの遺伝的多様性 ○富村健太・岩波 徹 (農研機構・果樹研)
351 座長 濱本 宏 エンバクの防御因子としてのアペナシンの働き ○鶴嶋 鉄 ¹ ・宮川 恒 ² ・Anne Osbourn ³ (阪南大, 流通・ ² 京大, 農・ ³ John Innes Centre)	451 座長 海道真典 リンゴモザイク病に見出された新規イラルウイルス [リンゴエモザイクウイルス, Apple necrotic mosaic virus (ApNMV)] (仮称) について ●野田浩気 ¹ ・山岸紀子 ¹ ・八重樫元 ² ・磯貝雅道 ¹ ・伊藤 伝 ² ・吉川信幸 ¹ (岩手大農・ ² 果樹研リンゴ)	549 座長 井上康宏 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>tomato</i> DC3000 の酸化ストレス応答性転写因子 OxyR は本菌の病原性に貢献する ○石賀康博 ¹ ・一瀬勇規 ² ・澤田貴博 ³ (筑波大生命環境・ ² 岡大院生命環境科学・ ³ 岡大農)

■第2日目午後

3月30日(月)	第1会場	第2会場
16:12	151 イネいもち病菌のDNA組換え修復に関与するMRN複合体の解析 ○阿部 歩・曾根輝雄(北大院農)	251 ベンサミアナタバコの核膜孔Nup107-160複合体を介して輸送される低分子量Gタンパク質Ranはジャガイモ疫病菌抵抗性に関与する ●水野邑里 ¹ ・大津美奈 ² ・小鹿 一 ¹ ・森 仁志 ¹ ・川北一人 ¹ ・竹本大吾 ¹ (¹ 名大院生農・ ² 現名大院理)
16:24	152 座長 西澤洋子 寄生植物ストライガの抵抗性におけるジャスモン酸とサリチル酸シグナル経路の役割 Mutuku Musembi ¹ ・○吉田聡子 ¹ ・清水崇史 ¹ ・市橋泰範 ¹ ・高橋 章 ² ・瀬尾光範 ¹ ・白須 賢 ¹ (¹ 理研・CSRS・ ² 農水・生物研)	252 ニトロソ化候補タンパク質イソクエン酸脱水素酵素のベンサミアナタバコにおける抵抗反応への関与 ●瀧波依里子 ¹ ・加藤大明 ² ・佐藤育男 ¹ ・竹本大吾 ¹ ・川北一人 ¹ (¹ 名大院生農・ ² 岩手生工研)
16:36	153 カプシオール生合成遺伝子・NiEAS4のWIPK/SIPK依存のおよび非依存的な傷害誘導機構 ●小島知弥 ¹ ・光原一朗 ² ・加藤新平 ¹ (¹ 信州大院農・ ² 生物研)	253 ジャガイモ疫病菌由来エリシターにより誘導されるジャガイモ植物の抵抗反応 ●山下将武 ¹ ・松田健太郎 ² ・Monjil Shajahan ³ ・佐藤育男 ¹ ・竹本大吾 ¹ ・川北一人 ¹ (¹ 名大院生農・ ² 東大院農・ ³ Bangladesh Agr. Univ.)
16:48	154 新規植物免疫制御剤の作用機構の解析 北畑信隆 ¹ ・吉川岳史 ¹ ・助川夏雄 ¹ ・吉田亜祐美 ¹ ・木村貴史 ¹ ・来須孝光 ^{1,2} ・有村源一郎 ³ ・浅見忠男 ⁴ ・○朽津和幸 ¹ (¹ 東京理科大・理工・応用生物科学・ ² 東京工科大・応用生物・ ³ 東京理科大・基礎工・生物工学・ ⁴ 東京大・院・農学生命科学)	254 座長 竹本大吾 エクト型ATPase(<i>PsAPY1</i>)の発現を抑制したエンドウの非適応型アブラナ科炭疽病菌に対する応答 ●矢尾幸世 ¹ ・三木紅葉 ² ・鈴木智子 ³ ・山岸紀子 ⁴ ・吉川信幸 ⁴ ・能年義輝 ^{1,2} ・稲垣善茂 ^{1,2} ・山本幹博 ^{1,2} ・一瀬勇規 ^{1,2} ・白石友紀 ^{1,5} ・豊田和弘 ^{1,2} (¹ 岡大院環生・ ² 岡大農・ ³ 岡大院自然科学・ ⁴ 岩手大農・ ⁵ 現 岡山生物研)
17:00	155 細胞内膜交通系を介したシロイヌナズナの感染防御応答の制御機構の解析 大滝 幹 ¹ ・○羽山大介 ¹ ・河村康希 ¹ ・北畑信隆 ¹ ・花俣 繁 ¹ ・来須孝光 ^{1,2} ・海老根一生 ³ ・上田貴志 ³ ・朽津和幸 ¹ (¹ 東京理科大・理工・応用生物科学・ ² 東京工科大・応用生物・ ³ 東京大・理・生物科学)	255 シロイヌナズナに存在する内生サブレッサーの作用機構 ●川崎達弘 ¹ ・マイタンルアン ¹ ・安倍幸子 ¹ ・能年義輝 ¹ ・稲垣善茂 ¹ ・山本幹博 ¹ ・一瀬勇規 ¹ ・白石友紀 ^{1,2} ・豊田和弘 ¹ (¹ 岡大院環生・ ² 現 岡山生物研)

第3会場	第4会場	第5会場
352 現地圃場におけるカラシナ鋤き込み太陽熱消毒によるハウレンソウ土壌病害軽減効果(第3報) ○伊藤陽子 ¹ ・竹原利明 ¹ ・富岡啓介 ¹ ・野見山孝司 ¹ ・須賀有子 ² ・佐藤恵利華 ¹ ・福永亜矢子 ¹ ・関口博之 ¹ ・生駒泰基 ¹ (¹ 農研機構 近中四農研・ ² 農研機構 中央農研)	452 ブルーベリーモザイク随伴ウイルス日本分離株の全塩基配列 八島 理・渡邊 学・吉川信幸・○磯貝雅道(岩手大農)	550 非病原性 <i>Rhizobium vitis</i> ARK-1株によるブドウ根頭がんしゅ病菌の <i>vir</i> 領域の発現抑制 ○川口 章 ¹ ・渡邊 恵 ² ・能年義輝 ² (¹ 岡山農研・ ² 岡山大院環境生命)
353 籾すり方式による稲こうじ病粒混入量の違い 石川浩司 ² ・樋口泰浩 ¹ ・黒田智久 ¹ ・○松澤清二郎 ¹ (¹ 新潟農総研作物物研・ ² 現新潟県経営普及課)	453 アオキに発生する <i>Badnavirus</i> 属ウイルスの検出と分子生物学的解析 ●鶴家綾香 ¹ ・M. S. Pinili ² ・夏秋啓子 ¹ (¹ 東京農大国際・ ² フィリピン大学ロスバニオス校)	551 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>tabaci</i> 6605の菌体密度感知機構転写制御因子 <i>PsyR</i> による <i>psyI</i> 並びに <i>hrpL</i> の転写制御 ●高田基弘・田口富美子・山本幹博・能年義輝・豊田和弘・稲垣義茂・一瀬勇規(岡大院環生)
354 キュウリつる枯病の有効薬剤による体系防除とUVカットフィルムによる分生子殻形成阻害効果の検討 ○岡田知之・森田泰彰(高知農技セ)	454 日本のブルグマンシアから分離された <i>Colombian datura virus</i> について ●諸橋一樹・遠藤三千雄・川合 昭・西尾 健(法政大学植物医科)	552 青枯病菌のクオルモンに関する機能学的・分子系統学的解析 ○石川詩歩 ¹ ・森 友花 ¹ ・東本周樹 ¹ ・嶋谷美香 ² ・大西秀幸 ² ・木場章範 ¹ ・大西浩平 ³ ・甲斐建次 ² ・曳地康史 ¹ (¹ 高知大農・ ² 大阪府大院生命環境・ ³ 高知大総研セ)
355 座長 菅原 敬 オクラのセルトレイ苗移植法による3種苗木枯性病害の被害回避 ○大城 篤・澤岬哲也・新崎千江美(沖縄農研セ)	455 農業生物資源ジーンバンクが保有する植物ウイルス株の特性評価—塩基配列解析による <i>Tobacco mosaic virus</i> の登録学名変更— ○一木(植原)珠樹・花田 薫・藪中恭子・大橋美保・杉本るり子・青木孝之・澤田宏之・永井利郎・根本 博(生物研 遺伝資源センター)	553 日本産イネもみ枯細菌病菌 <i>Burkholderia glumae</i> のquorum sensing 変異株の解析 ○加藤太郎 ¹ ・諸星知広 ¹ ・對馬誠也 ² ・池田 宰 ¹ (¹ 宇都宮大工・ ² 農環研)
356 <i>Pythium helicoides</i> によるポインセチア根腐病に対するシアゾファミド、メタラキシルおよび亜リン酸液体肥料による防除効果 ○堀川英則・三宅律幸・永井裕史・加藤晋朗(愛知農総試)	456 座長 石橋和大 <i>Barley yellow mosaic virus</i> VPg is the determinant for breaking barley eIF4E-mediated <i>rym4/5/6</i> resistance ●Li, H. ¹ , Kuehne, T. ² , and Shirako, Y. ³ (¹ Grad. Sch. Agric. Life Sci., Univ. Tokyo, ² Julius Kuehn Inst., Germany, ³ ANESC, Univ. Tokyo)	

■第2日目午後

3月30日(月)	第1会場	第2会場
17:12	156 座長 豊田和弘 PAMP 受容体複合体による活性酸素生成酵素 RBOHD の活性化機構の解析 ○門田康弘 ^{1,2} ・Jan Sklenar ² ・Paul Derbyshire ² ・Lena Stransfeld ² ・浅井秀太 ¹ ・Vardis Ntoukakis ¹ ・Jonathan DG Jones ² ・Frank Menke ² ・Alexandra Jones ² ・白須 賢 ¹ ・Cyril Zipfel ² (¹ 理研・CSRS・植物免疫研究グループ・ ² The Sainsbury Laboratory, United Kingdom)	256 灰色かび病菌とウリ類炭疽病菌の 26S プロテアソームサブユニット RPN 10 ホモログは病原性に関与する ●住田卓也 ¹ ・泉津弘佑 ² ・田中千尋 ¹ (¹ 京大院農・ ² 滋賀県大環境科学)
17:24	157 サリチル酸・ジャスモン酸相互作用を介したシロイヌナズナ過敏感反応の時空間的制御機構 ○別役重之 ^{1,2} ・加藤新平 ³ ・福田裕穂 ² (¹ JST さきがけ・ ² 東大院理・ ³ 信大農)	257 キチン信号伝達系における MAPKKK の活性化の遺伝学的解析 ●白川友美 ¹ ・山口公志 ¹ ・山田健太 ¹ ・市村和也 ² ・藤原正幸 ³ ・深溝 慶 ¹ ・川崎 努 ¹ (¹ 近畿大農・ ² 香川大農・ ³ 奈良先端大バイオ)
17:36	158 4 種の異なる病原菌に抵抗性を示す BSR1 高発現イネの抵抗性機構の解析 ○前田 哲・菅野正治・姜 昌杰・高辻博志・森 昌樹 (農業生物資源研究所)	258 糸状菌抵抗性における受容体様キナーゼ BAK1 の二つの役割 晝間 敬 ¹ ・山田公嗣 ² ・久保田裕生 ¹ ・平瀬大志 ¹ ・○西條雄介 ^{1,3} (¹ 奈良先端大バイオ・ ² 京都大学農学部・ ³ JST さきがけ)
17:48		259 PBL27 は MAPKKK をリン酸化することで CERK1 によるシグナルを MAPK カスケードへ伝達する ○山田健太 ¹ ・山口公志 ¹ ・白川友美 ¹ ・石川和也 ¹ ・鳴坂真理 ² ・鳴坂義弘 ² ・市村和也 ³ ・深溝 慶 ¹ ・渋谷直人 ⁴ ・川崎 努 ¹ (¹ 近畿大農・ ² 岡山生科研・ ³ 香川大農・ ⁴ 明治大農)
18:00		

第3会場	第4会場	第5会場
357 株枯病発生地に定植したイチジク苗木への株枯病菌初期感染時期の推定 ○森田剛成・軸丸祥大 (広島総研農技セ)	457 ダイコンモザイクウイルスの感染による茎頂壊死の誘導因子 ○橋本将典 ¹ ・遊佐 礼 ¹ ・友光達哉 ¹ ・桂馬拓也 ¹ ・岡野夕香里 ¹ ・小松 健 ² ・山次康幸 ¹ ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 農工大院農)	
358 キャベツパーティシリウム萎凋病の発病ポテンシャルマップの作成 ○池田健太郎 ¹ ・大澤剛士 ² ・酒井 宏 ¹ ・漆原寿彦 ³ ・加部 武 ¹ ・吉田重信 ² ・對馬誠也 ² (¹ 群馬農技セ・ ² 農環研・ ³ 群馬県庁)	458 組換えラッカセイわい化ウイルスを用いたラッカセイわい化因子の解析 ●高橋宏幸 ¹ ・根津 修 ² ・八坂亮祐 ³ ・大島一里 ^{3,4} ・宇垣正志 ¹ ・鈴木 匡 ¹ (¹ 東大院新領域・ ² 東大院農・ ³ 鹿児島大院連農・ ⁴ 佐賀大農)	
	459 CaMV Tav protein induces leaf chlorosis in transgenic tobacco through an SA-independent host response to its virulence function ●Waliullah, S. ¹ , Kosaka, N. ² , Yaeno, T. ^{1,2} , Ali, M.E. ² , Sekine, K. ³ , Atsumi, G. ³ , Yamaoka, N. ^{1,2} , Nishiguchi, M. ^{1,2} , Takahashi, H. ⁴ , and Kobayashi, K. ^{1,2} (¹ UGAS-Ehime, ² Facult. Agricult., Ehime Univ., ³ Iwate Biotech Res Center, ⁴ Grad. School Agricult., Tohoku Univ.)	
	460 リンドウこぶ症関連ウイルスの形態形成異常誘導タンパク質 GK32 が相互作用する宿主因子の探索 ○白川明日佳 ¹ ・厚見 剛 ¹ ・小林括平 ² ・富田麗子 ¹ ・関根健太郎 ¹ (¹ 岩手生工研・ ² 愛媛大農)	
	461 リンドウこぶ症関連ウイルスの GK32 遺伝子断片の発現は、シロイヌナズナにおいて木部の分化を制御するシグナル伝達系を活性化する ○厚見 剛 ¹ ・榎本悟史 ² ・富田麗子 ¹ ・白川明日佳 ¹ ・関根健太郎 ¹ (¹ 岩手生工研・ ² 東大院理)	

■第3日目午前

3月31日(火)	第1会場	第2会場
9:00	159 座長 青木孝之 エジプトのイネから分離された <i>Fusarium fujikuroi</i> 種複合体の菌種構成とジベレリン及びフモノニン産生 Gabr A. Elkot ¹ ・Mohsen M. Elsharkawy ¹ ・船坂美佳 ² ・清水将文 ³ ・景山幸二 ⁴ ・百町満朗 ³ ・〇須賀晴久 ² (¹ Faculty of Agriculture, University of Kafu Elsheikh・ ² 岐大生命セ・ ³ 岐大応生・ ⁴ 岐大流域研セ)	260 座長 辻 元人 内生糸状菌 <i>Colletotrichum tofieldiae</i> の感染を制御するシロイヌナズナの植物免疫機構 〇晝間 敬 ^{1,2} ・種田有加里 ¹ ・久保田裕生 ¹ ・Paul Schulze-Lefert ² ・西條雄介 ^{1,3} (¹ 奈良先端大・ ² マックスプランク研究所・ ³ JST さきがけ)
9:12	160 <i>Fusarium fujikuroi</i> に見られるジベレリン産生力の違いの原因マッピング ●長坂拓弥 ¹ ・新井満大 ¹ ・北嶋美葉 ¹ ・景山幸二 ² ・清水将文 ¹ ・百町満朗 ¹ ・須賀晴久 ³ (¹ 岐大応生・ ² 岐大流域研セ・ ³ 岐大生命セ)	261 糸状菌エフェクター NIS1 の植物免疫抑制能 〇入枝泰樹 ^{1,2} ・齋藤宏昌 ³ ・寺内良平 ³ ・高野義孝 ¹ (¹ 京大院農・ ² 現立教大理・ ³ 岩手生工研)
9:24	161 トマトから分離された <i>Fusarium fujikuroi</i> のジベレリン生産性と病原性 ●神谷信孝 ¹ ・今崎伊織 ² ・西掘由記 ¹ ・島岡舞衣 ¹ ・藤 晋一 ³ ・小嶋美紀子 ⁴ ・榎原 均 ⁴ ・北野英己 ¹ ・柘植尚志 ¹ (¹ 名大院生農・ ² 農研機構東北農研・ ³ 秋田県大生資・ ⁴ 理研 RCSRS)	262 ニジュウヤホシテントウの経口成分に由来する植物免疫誘導物質の部分精製 ●高橋来人・千賀紀尚・吉岡美樹・佐藤 豊・新美輝幸・近藤竜彦・吉岡博文 (名大院生農)
9:36	162 The White Collar Complex is Involved in Sexual Development of <i>Fusarium graminearum</i> Kim, H. ¹ , Kim, H.-K. ² , Lee, S. ² , and Yun, S.-H. ² (¹ Research Center for Biobased Chemistry, Korea Research Institute of Chemical Technology, ² Department of Medical Biotechnology, Soonchunhyang University)	263 Study on induction of disease tolerance by heat shock treatment of <i>Brassicaceae</i> ●Mai, T.L. ¹ , Le, T.P. ¹ , Notoushi, Y. ¹ , Inagaki, Y. ¹ , Yamamoto, M. ¹ , Ichinose, Y. ¹ , Shiraiishi, T. ^{1,2} , and Toyoda, K. ¹ (¹ Grad. Sch. Environ. Life Sci., Okayama Univ., ² RIBS Okayama)
9:48	163 イタドリの伝統的的生物的防除素材であるイタドリ斑点病菌の交配型遺伝子について 〇黒瀬大介 ^{1,2} ・古屋成人 ³ ・Kate M. Pollard ¹ ・Sarah E. Thomas ¹ ・土屋健一 ³ ・對馬誠也 ⁴ ・Richard H. Shaw ¹ ・Marion K. Seier ¹ (¹ CABI Europe-UK・ ² 海外学振・ ³ 九大院農・ ⁴ 農環研)	264 ウリ類炭疽病菌の出芽酵母ストレス制御因子 <i>WHI2</i> のホモログ <i>CoWHI2</i> は感染初期における多面的な宿主防御応答の誘導に関与する ●原田 賢 ¹ ・西内 巧 ² ・久保康之 ¹ (¹ 京府大院生環・ ² 金沢大・学際センター)

第3会場	第4会場	第5会場
359 座長 三澤知央 研究とエクステンション (技術普及) の融合: ワイン葡萄の各種胴枯病, ウイルス病を例に 〇荷田瑞穂 (バージニア工科大学)	462 座長 望月知史 P3N-PIPO と相互作用するエンドウの二つの独立した防御機構はクローバ葉脈黄化ウイルスの毒性を進化的に抑制すると思われる 鈴木春香 ¹ ・厚見 剛 ² ・宮下湧理 ¹ ・比佐雄亮 ¹ ・崔 善熹 ¹ ・〇中原健二 ¹ (¹ 北大院農・ ² 岩手生工研)	554 座長 中神弘史 ファイトプラズマの葉化誘導因子 <i>PHYL1</i> は <i>MADS-box</i> 転写因子と結合し機能を阻害する ●福岡美里 ¹ ・姫野未紗子 ¹ ・湊 菜未 ¹ ・藤田尚子 ³ ・前島健作 ¹ ・友光達哉 ¹ ・北沢優悟 ¹ ・小松 健 ³ ・大島研郎 ² ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 法政大植物医科・ ³ 農工大院農)
360 Web of Science に収録された植物病理学専門誌において日本の発表論文数は増加している 〇齋藤憲一郎 (農工大研推セ)	463 クローバ葉脈黄化ウイルスがコードする P3N-PIPO および新規タンパク質の発現機構 〇薦田 (萩原) 優香 ^{1,4} ・崔 善熹 ¹ ・佐藤昌直 ² ・厚見 剛 ³ ・阿部純也 ¹ ・中原健二 ¹ ・上田一郎 ¹ ・内藤 哲 ¹ (¹ 北大院農・ ² 基生研・ ³ 岩手生工研・ ⁴ 現: 東大院農)	555 <i>PHYL1</i> は宿主のユビキチンプロテアソーム系を介して <i>MADS-box</i> 転写因子の分解を誘導する 〇北沢優悟 ¹ ・前島健作 ¹ ・福岡美里 ¹ ・石川一也 ¹ ・友光達哉 ¹ ・姫野未紗子 ¹ ・小松 健 ² ・大島研郎 ³ ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 農工大院農・ ³ 法政大植物医科)
361 ネギ類の混植によるハウレンソウ萎凋病の抑制 ●五十嵐千佳 ¹ ・浅野雄二 ² ・西岡友樹 ¹ ・須賀晴久 ³ ・百町満朗 ¹ ・清水将文 ¹ (¹ 岐大応生・ ² 岐阜県飛騨農林事務所・ ³ 岐大生命セ)	464 ダイズとツルマメ間の組み換え自殖系統を用いたクローバ葉脈黄化ウイルスの全身感染抵抗性に関する QTL 解析 ●阿部純也・山田哲也・阿部 純・中原健二 (北大院農)	556 ファイトプラズマに広く保存される葉化誘導因子ファイロジェン ●友光達哉 ¹ ・北沢優悟 ¹ ・前島健作 ¹ ・福岡美里 ¹ ・岩淵 望 ¹ ・姫野未紗子 ¹ ・小松 健 ² ・大島研郎 ³ ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 農工大院農・ ³ 法政大植物医科)
362 ネギ混植のキュウリつる割病抑制効果における根圏 <i>Burkholderia</i> のピオケリンの役割 ●田中千尋 ¹ ・鈴木陽子 ¹ ・西岡友樹 ¹ ・長坂拓弥 ¹ ・須賀晴久 ² ・百町満朗 ¹ ・清水将文 ¹ (¹ 岐大院応生・ ² 岐大生命セ)	465 Phase Change of rgs-CaM-Mediated Immune Responses that Depend on Salicylic Acid in Tobacco ●Jeon, E.J., Miyasita, Y., and Nakahara, K. (Hokkaido University, Research Faculty of Agriculture)	557 座長 別役重之 ファイトプラズマの病原性因子 <i>TENGU</i> が誘導する不稔症状について ●原慎一郎・湊 菜未 ¹ ・星 朱香 ¹ ・前島健作 ¹ ・山次康幸 ¹ ・大島研郎 ² ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 法政大植物医科)
363 クエン酸鉄 (III) 錯体の光酸化還元反応の病害防除への適用 〇寺見文宏 ¹ ・佐藤 衛 ² (¹ 農研機構 野茶研・ ² 農研機構 花き研)	466 クローバ葉脈黄化ウイルス HC-Pro 発現に対するサリチル酸シグナリングの影響 ●村上泰基・中原健二 (北大院農)	558 ファイトプラズマのエフェクター <i>TENGU</i> による植物の不稔症状誘導機構の解析 ●湊 菜未 ¹ ・笠原博幸 ² ・竹林裕美子 ² ・前島健作 ¹ ・山次康幸 ¹ ・大島研郎 ³ ・神谷勇治 ⁴ ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 理研 CSRS・ ³ 法政大植物医科・ ⁴ 理研)

■第3日目午前

3月31日(火)	第1会場	第2会場
10:00	164 座長 宇佐見俊行 キャベツ萎黄病菌およびトマト萎凋病菌が保持する <i>SIX4</i> 座乗染色体の解析 ○柏 毅 ^{1,2} ・古崎利紀 ³ ・石井一夫 ³ ・寺岡 徹 ³ ・小松 健 ³ ・有江 力 ³ (農工大院連農・ ² 学振 DC・ ³ 農工大院農)	265 座長 白須 賢 イネ OsRLCK185 による NADPH オキシダーゼのリン酸化活性化機構 ○吉岡美樹 ¹ ・山口公志 ² ・藤原正幸 ³ ・吉村智美 ² ・川崎 努 ² ・吉岡博文 ¹ (1名大院生農・ ² 近畿大農・ ³ 奈良先端大バイオ)
10:12	165 上流にトランスポゾン <i>Fot5</i> 様領域の挿入を有するトマト萎凋病菌レース 2 ●赤井浩太郎 ¹ ・柏 毅 ^{2,3} ・新宅ユリエ ⁴ ・寺岡 徹 ⁵ ・小松 健 ⁵ ・有江 力 ⁵ (1農工大農・ ² 農工大院連農・ ³ 学振 DC・ ⁴ むさし育種農場・ ⁵ 農工大院農)	266 イネの免疫応答における OsPUB44 interactor1 (PBI1) の機能解析 ●井上健人・石川和也・山口公志・吉村智美・川崎 努 (近畿大農)
10:24	166 メロンつる割病菌感染植物の導管液のプロテオーム解析 ●大空 岳 ¹ ・安藤佑以 ¹ ・桑田啓子 ² ・森 仁志 ¹ ・花田耕介 ³ ・柘植尚志 ¹ (1名大院生農・ ² 名大 ITbM・ ³ 九工大生物情報)	267 RNA-seq による MAPK-WRKY 経路下流の植物免疫関連遺伝子の探索 ○安達広明 ¹ ・佐藤昌直 ² ・吉岡博文 ¹ (1名大院生農・ ² 基生研)
10:36	167 ドラフトゲノム解析による <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>cepae</i> のエフェクター候補遺伝子の選抜 ●児玉光里・佐々木一紀・田中秀平・伊藤真一 (山口大農)	268 PAMPs に応答した WRKY8 転写因子のリン酸化動向 ●波多江健太・安達広明・吉岡美樹・吉岡博文 (名大院生農)
10:48	168 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>cepae</i> が分泌する萎凋誘導タンパク質の同定 ○佐々木一紀・田中秀平・伊藤真一 (山口大農)	269 VQ タンパク質は WRKY8 誘導による防御関連遺伝子の発現を亢進する ●吉見隆寿・安達広明・吉岡博文 (名大院生農)

第3会場	第4会場	第5会場
364 座長 佐藤育男 低分子環状ペプチドライブラリーを探索源とした植物免疫活性化剤の同定 ○香西雄介 ¹ ・山中由利恵 ¹ ・渡邊 恵 ¹ ・木村麻美子 ¹ ・北松瑞生 ² ・能年義輝 ¹ (1岡大院環境生命・ ² 近大理工)	467 座長 岩川弘宙 葉緑体タンパク質 THF1 の新規相互作用因子の探索 ●杉若侑治・田島 薫・菅沼裕介・八丈野孝・山岡直人・西口正通・小林括平 (愛媛大農)	559 パーブルトップ症状はファイトプラズマ感染による細胞死の誘導を抑制する ○姫野未紗子 ¹ ・友光達哉 ¹ ・遊佐 礼 ¹ ・北沢優悟 ¹ ・煉谷裕太郎 ¹ ・前島健作 ¹ ・大島研郎 ² ・難波成任 ¹ (1東大院農・ ² 法政大植物医科)
365 植物免疫プライミング剤インプリマチン D の作用解析 福井絢子 ¹ ・香西雄介 ¹ ・稲垣善茂 ¹ ・山本幹博 ¹ ・一瀬勇規 ¹ ・豊田和弘 ¹ ・白須賢 ² ・○能年義輝 ¹ (1岡山大院・環境生命・ ² 理研 CSRS)	468 <i>RCY1/HRT/RPP8</i> 複合抵抗性遺伝子座を利用した組換えウイルス抵抗性遺伝子とランダム変異導入外被タンパク質遺伝子を用いた CMV 抵抗性の解析 ○安藤由起・安藤杉尋・高橋英樹 (東北大院農)	560 ファイトプラズマの膜タンパク質 P38 の MAM 領域は昆虫宿主への接着に重要である ●煉谷裕太郎 ¹ ・友光達哉 ¹ ・遊佐 礼 ¹ ・二條貴通 ¹ ・鯉沼宏章 ¹ ・姫野未紗子 ¹ ・前島健作 ¹ ・大島研郎 ² ・難波成任 ¹ (1東大院農・ ² 法政大植物医科)
366 希少糖の植物への作用 (35) : イネの G6PDH と複合体化するタンパク質の探索 ●安喜絢花 ¹ ・松平一志 ¹ ・加野彰人 ¹ ・望月 進 ¹ ・大谷耕平 ² ・福元健志 ¹ ・吉原明秀 ¹ ・何森 健 ¹ ・河西史人 ³ ・小原敏明 ³ ・重松由夫 ³ ・石田 豊 ⁴ ・市村和也 ¹ ・五味剣二 ¹ ・秋光和也 ¹ (1香川大農・ ² 松谷化学工業・ ³ 三井化学アグロ・ ⁴ 四国総研)	469 キュウリモザイクウイルス抵抗性遺伝子 <i>RCY1</i> の発現調節における <i>PARTNER OF Y14-MAGO (PYM)</i> の関与 ○佐藤有希代・安藤杉尋・高橋英樹 (東北大院農)	561 座長 奥田 充 <i>Detection of potyviruses infecting Iranian bean crops using degenerate primers</i> Valouzi, H., ○Golnaraghi, A., and Rakhshandehroo, F. (Science and Research Branch, Islamic Azad University (IAU), Tehran, Iran)
367 希少糖の植物への作用 (36) : D-Allose シグナル伝達に關与するイネ活性酸素生産酵素複合体タンパク質候補の探索 ●井上 恵 ¹ ・安喜絢花 ¹ ・松平一志 ¹ ・加野彰人 ¹ ・望月 進 ¹ ・大谷耕平 ² ・福元健志 ¹ ・吉原明秀 ¹ ・何森 健 ¹ ・河西史人 ³ ・小原敏明 ³ ・重松由夫 ³ ・石田 豊 ⁴ ・市村和也 ¹ ・五味剣二 ¹ ・秋光和也 ¹ (1香川大農・ ² 松谷化学工業・ ³ 三井化学アグロ・ ⁴ 四国総研)	470 DNA メチル化酵素変異体を用いた RNA サイレンシング関連因子 <i>AGO2</i> のプライミングとキュウリモザイクウイルス抵抗性の解析 ●大谷 峻・高橋英樹・安藤杉尋 (東北大院農)	562 ラナンキュラスの 3 種ウイルス (Ran MMV, CMV, TSWV) を同時検出するマルチプレックス RT-PCR 法の開発 ○大坪早貴 ¹ ・松下陽介 ² ・櫛間義幸 ¹ ・菅野善明 ³ ・寺本 敏 ¹ (1宮崎県総農試・ ² 花き研・ ³ 南九大環)
368 希少糖の植物への作用 (37) : イネにおいて D-psychose をリン酸化する OsFK1 の諸性質の解析 ●松平一志 ¹ ・加野彰人 ¹ ・馬越史奈 ¹ ・望月 進 ¹ ・大谷耕平 ² ・福元健志 ¹ ・吉原明秀 ¹ ・何森 健 ¹ ・河西史人 ³ ・小原敏明 ³ ・重松由夫 ³ ・石田 豊 ⁴ ・市村和也 ¹ ・五味剣二 ¹ ・秋光和也 ¹ (1香川大農・ ² 松谷化学工業・ ³ 三井化学アグロ・ ⁴ 四国総研)	471 キュウリモザイクウイルス抵抗性誘導時の RNA サイレンシング関連因子 <i>AGO2</i> のプライミングに対するヒストン修飾機構の関与 ○安藤杉尋 ^{1,2} ・Michal Jaskiewicz ² ・高橋英樹 ¹ ・Uwe Conrath ² (1東北大院農・ ² アーヘン工科大学)	563 RT-LAMP 法による fig mosaic virus の簡易・迅速・高感度な検出系の開発 ●宮崎彰雄・石川一也・遊佐 礼・友光達哉・根津 修・前島健作・難波成任 (東大院農)

■第3日目午前

3月31日(火)	第1会場	第2会場
11:00	169 座長 森脇丈治 ジャガイモ疫病菌の土壌混和接種による塊茎腐敗の発病条件 ●福江由佳 ¹ ・大塚美幸 ¹ ・秋野聖之 ¹ ・浅野賢治 ² ・近藤則夫 ¹ (¹ 北大院農・ ² 農研機構北農研)	270 座長 西村麻里江 ウリ類炭疽病菌 GAP 複合体 CoBub2/CoBfa1 は GTPase CoTem1 を介して G1/S 期進行制御および病原性に関与する ●深田史美・坂口 歩・久保康之 (京府大院生環)
11:12	170 日本産 <i>Pythium splendens</i> の雌雄性および種内系統と病原性との関係 池田晴佳 ^{1,6} ・亀川 藍 ² ・埋橋志穂美 ³ ・Lorien E. Radmer ^{1,7} ・山崎 (小林) 咲麗 ¹ ・鈴木啓史 ⁴ ・黒田克利 ⁴ ・舟久保太一 ⁵ ・市川和規 ⁵ ・○東條元昭 ¹ (¹ 大府大生環・ ² 沖縄県庁・ ³ 理研 BRC-JCM・ ⁴ 三重農研・ ⁵ 山梨総農セ・ ⁶ 現：和歌山果樹試・ ⁷ 現：Univ. Minnesota)	271 いもち病菌の根侵入において胞子内の核の S 期への導入が重要である ○井上加奈子 ¹ ・中屋敷均 ¹ ・Miriam Oses-Ruiz ² ・Wasin Sakulkoo ² ・Talbot Nicholas ² ・池田健一 ¹ (¹ 神大院農・ ² エクセター大)
11:24	171 Occurrence of <i>Pythium</i> spp. in irrigation water and the possibility of their infection to cultivated crop plants ○ Abdelzaher, H.M.A., and Moustafa, S.M.N. (College of Science, Aljouf University, Saudi Arabia)	272 PEX33 is required for infection-related pexophagy in appressoria of <i>Colletotrichum orbiculare</i> ○ Ogawa, S., Maeda, H., and Takano, Y. (Grad. Sch. of Agric. Kyoto Univ.)
11:36	172 千葉県の春夏ニンジンに発生しているしみ症について ○横山とも子・中村耕士・中田菜々子・深見正信 (千葉農林総研)	273 いもち病菌の根部感染過程にオートファジーは必須ではない ○池田健一 ¹ ・井上加奈子 ¹ ・中屋敷均 ¹ ・Michael Kershaw ² ・Nicholas Talbot ² (¹ 神大院農・ ² エクセター大)
11:48	173 ブドウべと病に対する花穂の感受性と生育初期の防除薬剤 ○綿打享子・功刀幸博・村上芳照・内田一秀 (山梨果樹試)	274 トマト osmotin (NP24) による酵母のアポトーシスの誘導 ●樋口直樹 ¹ ・伊藤康博 ² ・加藤 順 ¹ ・萩原 淳 ¹ ・春見隆文 ¹ (¹ 日大生資科・ ² (独) 農研機構・食総研)

第3会場	第4会場	第5会場
369 座長 平塚和之 育苗期の紫外光照射によるイチゴうどんこ病の効果的な防除時期の検討 ○西村文宏 ¹ ・森 充隆 ¹ ・佐藤 衛 ² (¹ 香川農試・ ² 農研機構花き研)	472 座長 松下陽介 カブモザイクウイルス (TuMV) 感染で全身えそ誘導するアラビドプシスの <i>TuNI</i> 遺伝子の転写調節の解析 ○劉 錦妍・犬飼 剛・増田 税 (北大院農)	564 マルチプレックス RT-LAMP 法による超高感度 pepino mosaic virus 検出系の開発 ●松田健太郎・芳賀俊亮・吉田哲也・友光達哉・根津 修・西田萩子・前島健作・難波成任 (東大院農)
370 ウレアホルム肥料と微生物資材の併用がジャガイモそうか病発病に及ぼす影響について ○吉田穂積 ¹ ・加藤寛子 ¹ ・百田孝福 ¹ ・斉藤勇磨 ¹ ・池田成志 ² ・浅野賢治 ² ・高橋直和 ³ (¹ 東京農大 生産・ ² 農研機構・北農研・ ³ サンアグロ (株))	473 ウイルス抵抗性遺伝子 <i>N</i> のイントロン配列の遺伝子発現およびエリシターによる細胞死誘導における役割 山家美歩・松沢健太・○佐々木信光・丹生谷博 (東京農工大学)	565 座長 藤 晋一 網羅的 RNA ウイルス検出技術「DECS 法」の高効率化に向けた DRB4 タンパク質の機能解析 富田麗子・厚見 剛・白川明日佳・○関根健太郎 (岩手生工研)
371 サーモシード™ (高温加湿空気による種子消毒) のイネいもち病に対する効果 ○藤根 統 ¹ ・宮川典子 ² ・松尾多恵子 ³ ・坂田智子 ³ (¹ 道総研上川農試・ ² 全農・ ³ インコテックジャパン (株))	474 国内で発生している <i>Apple dimple fruit viroid</i> (ADFVd) の塩基配列と系統解析 ●葛西鴻志・鈴木貴大・高橋諒大・山崎祐人・齊藤瑠衣・成田和子・藤林美里・佐野輝男 (弘大農生)	566 ディープシーケンスによるブルーベリー及びブラックベリー苗からのウイルス検出 ○柳澤広宣 ¹ ・勝 幸司 ¹ ・富田麗子 ² ・厚見 剛 ² ・関根健太郎 ² (¹ 横浜植物防疫所・ ² 岩手生工研)
372 高接ぎ木栽培によるピーマン青枯病の発病抑制効果 ○鍛冶原寛 ¹ ・西田美沙子 ¹ ・出穂美和 ¹ ・瓦 朋子 ² ・中保一浩 ³ (¹ 山口農林総セ・ ² ベルグアース・ ³ 農研機構・中央農研)	475 異なる分子内ループ構造を有するコリウスブルメイウイロイド 1 (CbVd-1) 変異体の遺伝的安定性と種子伝染性の分析 ○対馬太郎・佐野輝男 (弘前大学・農学生命科学部)	567 ウイルスの細胞感染ゲノム数の進化シミュレーション ○宮下脩平・石川雅之 (生物研)
373 酸化マグネシウムナノ粒子によるトマトの青枯病に対する全身的な抵抗性誘導作用 ●今田 潔 ¹ ・境 昭二 ² ・鍛冶原寛 ³ ・田中秀平 ¹ ・伊藤真一 ¹ (¹ 山口大農・ ² 宇部マテリアルズ・ ³ 山口県農林総セ)	476 ジャガイモやせいもウイロイド - ダリア株の変異及び右末端領域の塩基変異と病原性 ●対馬大希 ^{1,2} ・佐野輝男 ² (¹ 岩手連大・ ² 弘大農生)	

■第3日目午後

3月31日(火)	第1会場	第2会場
13:00	174 座長 中屋敷均 種特異的プライマーによるハナノキの褐色円斑病菌 <i>Phyllosticta minima</i> の検出 ●矢野顕子 ¹ ・中島千晴 ² ・本橋慶一 ³ (¹ 東農大 森林・ ² 三重大院 生資・ ³ 東農大 地域)	275 座長 川崎 努 The putative host uptake motif in the Tin2 effector of <i>Ustilago maydis</i> ○Tanaka, S. ¹ , Roemer, M. ¹ , Zechmann, B. ² , and Kahmann, R. ¹ (¹ Max Planck Institute for Terrestrial Microbiology, ² Baylor University)
13:12	175 Simple detection of <i>Pythium irregulare</i> using loop-mediated isothermal amplification (LAMP) assay ●Feng, W. ¹ , Ishiguro, Y. ² , Hotta, K. ² , Suga, H. ³ , and Kageyama, K. ² (¹ Grad. School of Appl. Biol. Sci., Gifu Univ., ² River Basin Res. Center, Gifu Univ., ³ Life Sci, Res. Center, Gifu Univ.)	276 相同な NBS-LRR タンパク質をコードするいもち病抵抗性遺伝子 <i>Pib</i> とトビイロウンカ抵抗性遺伝子 <i>BPH26</i> は何が特異性を決定するのか？ ○加星光子・田村泰盛・高橋 章 (生物研)
13:24	176 捕捉 LAMP 法を利用したショウガ根茎腐敗病菌の土壌中からの検出 ○矢野和孝・岡田知之・森田泰彰 (高知農技セ)	277 最近我が国で分離されたイネいもち病菌菌株の <i>Pi20</i> (t) 判別品種 IRBL20-IR24 に対する病原性 ○林 長生 ¹ ・福田善通 ² (¹ 生物研・ ² 国際農研セ)
13:36	177 ベイト-LAMP 法を利用した培養液からの <i>Pythium helicoides</i> の簡易検出 ○永井裕史 ¹ ・三宅律幸 ¹ ・松崎聖史 ¹ ・福田至朗 ¹ ・鈴木良地 ¹ ・高橋麗子 ² ・景山幸二 ³ (¹ 愛知農総試・ ² 愛知県農林水産部・ ³ 岐大流域研セ)	278 イネいもち病圃場抵抗性遺伝子 <i>Pi34</i> が病斑形成と PAL 経路に与える影響 ○鬼頭英樹・善林 薫 (農研機構東北農研)
13:48	178 LAMP によるトマト萎凋病菌 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>lycopersici</i> (<i>Fol</i>) レース 1 の識別 ○鮎川 侑 ¹ ・柏 毅 ^{2,3} ・赤井浩太郎 ⁴ ・山田麻貴 ¹ ・寺岡 徹 ¹ ・有江 力 ¹ ・小松 健 ⁵ (¹ 農工大院農・ ² 農工大院連農・ ³ 学振 DC・ ⁴ 農工大農・ ⁵ 農工大テニウアトラック機構)	279 イネ染色体 6 上に検出されたいもち病抵抗性 QTL の特性と防御応答における priming 効果 ○犬飼 剛・長嶋沙希・加藤美弥子・増田 税 (北大院農)

第3会場	第4会場	第5会場
374 座長 景山幸二 佐賀県上場地域で発生するタマネギ乾腐病に關与する <i>Fusarium</i> 属菌 ○正司和之 ¹ ・黒瀬大介 ² ・吉田重信 ³ ・佐藤育男 ⁴ ・對馬誠也 ³ ・田代暢哉 ¹ (¹ 佐賀上場営農セ・ ² CABI Europe-UK・ ³ 農環研・ ⁴ 名大院生農)	477 座長 佐々木信光 fig mosaic virus の nucleocapsid protein の細胞内局在と動態の解析 ●吉田哲也 ¹ ・石川一也 ¹ ・三浦千裕 ¹ ・笹野百花 ¹ ・前島健作 ¹ ・小松 健 ² ・山次康幸 ¹ ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 農工大院農)	568 座長 兼松聡子 日本国内で採取されたイネいもち病菌マイコウイルス <i>Magnaporthe oryzae chrysovirus 1</i> のゲノム配列の決定とウイルス粒子の構造解析 ○加藤 優 ¹ ・浦山俊一 ¹ ・相原光宏 ¹ ・福原敏行 ¹ ・藤 晋一 ² ・小林 隆 ³ ・長谷 修 ³ ・小松 健 ¹ ・有江 力 ¹ ・寺岡 徹 ¹ ・森山裕充 ¹ (¹ 農工大院農・ ² 秋田県大生資・ ³ 山形大農)
375 <i>Fusarium ananatum</i> によるパインアップル小果腐敗病 (新称) ○新崎千江美 ¹ ・澤岷哲也 ¹ ・大城 篤 ¹ ・竹内誠人 ² ・諸見里知絵 ² ・青木孝之 ³ (¹ 沖縄農研セ・ ² 沖縄農研セ名護・ ³ 生物研)	478 fig mosaic virus の nucleocapsid protein の形成する細胞質凝集体は小胞体流動により受動的に運搬される ●石川一也 ¹ ・三浦千裕 ¹ ・吉田哲也 ¹ ・前島健作 ¹ ・小松 健 ² ・山次康幸 ¹ ・難波成任 ¹ (¹ 東大院農・ ² 農工大院農)	569 イネいもち病菌マイコウイルス MoCV1 の RT-LAMP を用いた検出法の確立 ○小松 健 ^{1,2} ・藤田尚子 ¹ ・有江 力 ¹ ・寺岡 徹 ¹ ・森山裕充 ¹ (¹ 農工大院農・ ² 農工大テニウアトラック機構)
376 Morphological and Molecular Characterization of <i>Fusarium</i> spp. in Rubber Trees from Sao Paulo State, Brazil ●Pizetta, M. ^{1,2} , Ayukawa, Y. ² , Kashiwa, T. ^{3,4} , Pierozzi, C.G. ¹ , Komatsu, K. ^{2,5} , Teraoka, T. ² , Arie, T. ² , and Furtado, E.L. ¹ (¹ Sao Paulo State Univ., College of Agricultural Science, ² Grad. Sch. Agric., Tokyo Univ. of Agric. Tech., ³ Unit. Grad. Sch. Agric., Tokyo Univ. of Agric. Tech., ⁴ JSPS Research Fellow, ⁵ Organization for Promotion of Tenure-track System, Tokyo Univ. of Agric. Tech.)	479 <i>Red clover necrotic mosaic virus</i> (RCNMV) 移行タンパク質の細胞内輸送経路の探索 ●河野早帆・三瀬和之・奥野哲郎・海道真典 (京大院農)	570 <i>Alternaria alternata</i> N18 株に感染するマイコウイルスの二本鎖 RNA ゲノムの一部欠損及びタンパク質の機能解析 ●一ノ瀬俊 ¹ ・岡田 亮 ¹ ・福原敏行 ¹ ・有江 力 ¹ ・寺岡 徹 ¹ ・石原 亨 ² ・児玉基一郎 ³ ・森山裕充 ¹ (¹ 農工大院農・ ² 鳥取大農・ ³ 鳥取連大)
377 千葉県におけるレタス根腐病の発生 ○魏 傳釗・久保千尋・緑川奈保子 (みかど協和育種研)	480 RNA3 の 5' 非翻訳領域 (UTR) のポリ U 配列の伸長によって <i>Brome mosaic virus</i> (BMV) は <i>Dicer-like</i> (<i>DCL</i>) 遺伝子欠損シロイヌナズナに全身感染する ●中川沙耶・海道真典・奥野哲郎・三瀬和之 (京大院農)	571 生育不良を示す <i>Phytophthora</i> 属菌から検出されたエンドルナウイルス ○内田景子 ¹ ・北村優実 ² ・岡田 亮 ² ・福原敏行 ² ・有江 力 ² ・寺岡 徹 ² ・植松清次 ³ ・森山裕充 ² (¹ 農工大院連農・ ² 農工大院農・ ³ 千葉暖地)
	481 座長 中原健二 トマト近縁種における <i>Pepper mild mottle virus</i> の感染性 ●森川憂乃・徳永雅之・浜田拓弥・水本祐之・木場章範・曳地康史 (高知大農)	572 座長 森山裕充 Deep sequencing 解析により明らかになった <i>Botrytis tulipae</i> の 9 種ウイルスによる混合感染 ○近藤秀樹 ¹ ・久野 昌 ¹ ・林 諭昕 ¹ ・千葉壮太郎 ^{1,2} ・鈴木信弘 ¹ (¹ 岡山大植物研・ ² 名大院生農・ASCI)

■第3日目午後

3月31日(火)	第1会場	第2会場
14:00	179 座長 海老原克介 トマト半身萎凋病菌レース3の遺伝的性状およびピーマンに対する病原性大森由佳梨 ¹ ・○中尾圭佑 ^{1,2} ・渡辺秀樹 ³ ・松波宏明 ⁴ ・宇佐見俊行 ² (1千葉大学園芸学部・2千葉大学大学院園芸学研究科・3岐阜県農業技術センター・4岐阜県飛騨農林事務所)	280 座長 中島雅己 稲こうじ病の発病と出穂時の1穂水分含量との関係 ○宮野法近・鈴木智貴・櫻田史彦 (宮城県古川農業試験場作物保護部)
14:12	180 ナシ園内とその周辺に自生した雑草の白紋羽病について ○河原崎秀志・加藤孝太郎・勝倉光徳 ((公財)農環健研)	281 アワしらが病罹病小穂の葉化症状の解析 ○小林光智衣 ¹ ・平賀幸江 ¹ ・仲條眞介 ² ・阿部 陽 ¹ ・高木宏樹 ¹ ・齋藤宏昌 ¹ ・寺内良平 ¹ (1岩手生工研・2岩手農研セ)
14:24	181 カンキツ青かび病菌および緑かび病菌の選択培地 ○村本和之・兼常康彦 (山口農林総技セ)	282 <i>Fusarium avenaceum</i> 菌接種ほ場におけるニンジン乾腐病の発病動態 ○丹羽昌信・吉田直人・大山耕二・玉田哲男 (ホクレン農総研)
14:36	182 赤外線カメラによるパラゴムノキの根白腐病診断法 ○曾根恒星 ¹ ・内島和人 ¹ ・保坂武宣 ² ・玉泉幸一郎 ² ・渡辺訓江 ¹ (1株式会社ブリヂストン・2九州大学)	283 アブラナ科炭疽病菌エフェクター候補遺伝子過剰発現系によるウリ類炭疽病菌のメタロプロテアーゼ遺伝子 <i>CoMEPI</i> の同定と病原性への関与 ●中前彩加 ¹ ・原田 賢 ¹ ・坂口 歩 ¹ ・鳴坂真理 ² ・鳴坂義弘 ² ・高野義孝 ³ ・Pamela Gan ⁴ ・白須 賢 ⁴ ・久保康之 ¹ (1京府大院生環・2岡山生科研・3京大院農・4理研)
14:48	183 DNA マイクロアレイを用いた植物病害診断の応用研究(2) ○一色淳憲・大津貴義 (東洋製罐GHD 綜研)	284 内生細菌 <i>Acinetobacter</i> の茎葉散布によるトマト青枯病の抑制 南谷理紗 ¹ ・○清水将文 ² ・須賀晴久 ³ ・百町満朗 ² (1岐大院応生・2岐大応生・3岐大生命セ)
15:00		
15:12		

第3会場	第4会場	第5会場
	482 混合感染における植物ウイルス間の局部干渉に関する解析 ●小田裕太 ¹ ・竹下 稔 ¹ ・吉岡博文 ² ・古屋成人 ¹ ・土屋健一 ¹ (1九大院農・2名大院生農)	573 RNA サイレンシングと DI-RNA によるパルティティウイルス RnPV6 病原性・複製への影響 ○千葉壮太郎 ^{1,2} ・林 諭昕 ¹ ・近藤秀樹 ¹ ・兼松聡子 ³ ・鈴木信弘 ¹ (1岡山大・IPSR・2名大院生農・ASCI・3農研機構果樹研リンゴ)
	483 ラズベリー黄化ウイルスの ORF 1b の欠失変異株の異種ウイルスの RNA サイレンシングサプレッサーによる相補試験 ●志村拓哉・吉川信幸・磯貝雅道 (岩手大農)	574 白紋羽病菌における5種の二本鎖 RNA マイコウイルス由来 siRNA の比較プロファイリング ○八重樫元・清水健雄・伊藤 伝・兼松聡子 (果樹研リンゴ)
	484 シロイヌナズナの転写抑制共因子 TOPLESS とエチレン応答性因子の相互作用解析 ●郷 由梨 ¹ ・前田美樹 ¹ ・小賀田拓也 ² ・松下保彦 ¹ (1農工大・遺伝子・2国際農研・生物資源利用)	575 座長 近藤秀樹 白紋羽病菌 <i>Rosellinia necatrix</i> におけるメガビルナウイルス感染時に発現変動する転写因子 ○清水健雄・八重樫元・伊藤 伝・兼松聡子 (果樹研リンゴ)
	485 座長 安藤杉尋 VIGS によるトウガラシのカプサイシン合成酵素遺伝子の同定 ●古谷未咲 ¹ ・小川佳奈 ¹ ・室田勝功 ² ・志村華子 ¹ ・外川靖子 ¹ ・松村 健 ² ・増田 税 ¹ (1北大院農・2産総研)	576 次世代シーケンサを用いた白紋羽病菌の細胞質不和合性反応における発現変動遺伝子の解析 ○森田雄一 ¹ ・上森喬大 ¹ ・井上加奈子 ¹ ・中屋敷均 ¹ ・兼松聡子 ² ・池田健一 ¹ (1神戸大院農・2果樹研リンゴ)
	486 リンゴ小球形潜在ウイルス (ALSV) ベクターによるアウトウおよびブドウでの外来遺伝子の発現 ●前田清明 ¹ ・山岸紀子 ¹ ・李 春江 ¹ ・磯貝雅道 ¹ ・五十鈴川寛司 ² ・山下裕之 ³ ・田尾龍太郎 ⁴ ・吉川信幸 ¹ (1岩手大農・2山形園試・3山梨大生命・4京都大農)	577 白紋羽病菌へのマイコウイルスの自然感染現象の再現 ○兼松聡子・八重樫元・伊藤 伝 (農研機構 果樹研究所 リンゴ研究領域)
	487 改良型リンゴ小球形潜在ウイルス (ALSV) ベクターの VIGS 誘導能、複数遺伝子の同時発現/抑制および安定性 ○李 春江・山岸紀子・今 辰哉・吉川信幸 (岩手大農)	
	488 転写ジーンサイレンシングの人為的誘導系の構築 ●渡邊希香・西村洋子・鈴木 匡・宇垣正志 (東大院新領域)	